

内定者の 声

平成 28 年入省予定
環境省総合職自然系

はじめに

『自然』ときいて、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。
森、里、川、海、そこにすむ様々な生き物たち……。

日本は地域によって様々な地形や気候的特徴をもち、多様な自然環境にふれることができます。現在は32の国立公園が指定され、四季折々の自然が私たちを楽しませてくれます。しかし近年、開発や乱獲、里地里山などの手入れ不足、外来種などによって自然環境は危機にさらされています。

環境省の自然系職員(通称『自然保護官』『レンジャー』)は、多岐にわたる自然環境業務を行っています。具体的には生態系の保全、国立公園の管理、外来種対策や鳥獣保護といった野生動物の保護、ペット動物の愛護、エコツーリズムといった自然とのふれあい推進など様々です。霞が関の本省での仕事に加え、各地方の事務所に赴任し、他の職種の方々、地域の方々と協力しながら、現場の第一線で活動するというのも自然系職の特徴の一つです。

では、どうしたらレンジャーになれるのでしょうか？

この冊子は平成28年度の総合職自然系職員として内定した8名が、どのような思いで志望したのか、どのようなことをしてきたのか、そして受験者へのアドバイスなどを書き綴ったものです。レンジャーに興味のある皆さんの助けに少しでもなれば幸いです。

心に浮かんだ豊かな『自然』を守り、共に生きていける社会をつくっていきましょう！

※環境省について

環境省には総合職と一般職があり、事務系、理工系、自然系に分かれています。

(『レンジャー』には総合職および一般職の自然系職員がなることができます。)

この冊子は総合職の自然系内定者によるものです。

各職種の詳しい業務内容やお知らせなどはホームページをご覧ください。

『環境省ホームページ<http://www.env.go.jp/>』

『環境省総合職自然系ページhttp://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_g3/index.html』

※この冊子の記載はあくまでも個人の意見です。これを参考に、自分にあった勉強方法をみつけていただければと、内定者一同願っております。

目次

はじめに	2
目次	3
内定へ向けての予備知識	4
利用した参考書・資料一覧	8
内定への道	
Aさんの場合	11
Bさんの場合	17
Cさんの場合	25
Dさんの場合	28
Eさんの場合	33
Fさんの場合	39
Gさんの場合	44
Hさんの場合	49
内定者ってどんな人たち？	55
職員の方々の印象深い言葉	57

🌱 内定へ向けての予備知識 🌱

* 平成 27 年度国家公務員総合職試験及び内定までの流れ* ※1

日程	内容	備考
2/2 (月)	受験案内等 HP に掲載開始	
4/1~4/8	申込受付期間 (インターネット)	
5/24 (日)	第 1 次試験日 ◎AM 専門多岐選択式 ◎PM 基礎能力	・ <u>私服歓迎</u> ・ 翌日 (5/25) に HP に解答掲載
6/9 (火)	第 1 次試験合格者発表日 接触禁止期間開始※2	・ ネットとハガキにて通知
6/28 (日)	第 2 次試験日 (筆記) ◎AM 専門記述式 ◎PM 政策論文 (大卒のみ)	
7/2~7/17 の平日	第 2 次試験 ◎大卒者試験 (人物)	・ 日時は <u>記述試験後</u> にメール等で通知され、原則変更不可 ・ <u>提出物</u> に注意! ・ スーツ推奨 (クールビズ)
7/13~7/17 の平日	第 2 次試験 ◎院卒者試験 (政策課題討議・人物)	同上
7/31 (金)	最終合格者発表	・ ネットとハガキにて通知
8/5~7	官庁訪問開始・第 1 クール	・ スーツ推奨 (クールビズ) ・ 第 1 クール 2 日目以降は要予約
8/10~12	官庁訪問・第 2 クール	・ 指定された日時に訪問
8/18 (火)	内々定解禁	・ 電話にて通知
10/1 (木)	最終面接、内定式、懇親会	・ 自然系は初めて内定者と面会

※1) H28 版日程は国家公務員試験採用情報ナビ (<http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>)
でご確認ください。

※2) 接触禁止期間とは、人事院が主催する官庁合同業務説明会を除き、受験者と各府省等との一切の接触 (電話・メール含む) が禁止される期間のことです。つまり、OB/OG 訪問等はその前に行わなければなりません。

* 試験区分について *

平成 27 年度から森林・自然環境区分に加えて化学・生物・薬学区分から採用されるようになりました。平成 28 年度も森林・自然環境と化学・生物・薬学の 2 区分で採用予定があるようですが、本年度の内定者は全員が森林・自然環境区分であったため、化学・生物・薬学区分のアドバイスはできません。ご容赦ください。

* 森林・自然環境区分の各試験の概要 *

□ 基礎能力試験（配点 2/15）

- ・試験内容は知能分野（文章理解、判断・数的推理、資料解釈）と知識分野（自然・人文・社会、時事）で、全て多肢選択式です。
- ・院卒区分は知能分野 24 題＋知識分野 6 題の計 30 題で制限時間は 2 時間 20 分
大卒区分は知能分野 27 題＋知識分野 13 題の計 40 題で制限時間は 3 時間です。

□ 専門多肢選択式試験（配点 3/15）

- ・必須問題（森林・自然環境に関する基礎）と選択問題 3 科目 27 題の計 40 題、制限時間は 3 時間 30 分です。時間は有り余るので途中退出する人が多いです。
- ・選択問題は以下の科目から 3 つを解答時に選びます。

- | |
|---|
| 1. 森林環境科学、2. 森林資源科学、3. 森林生物生産科学、4. 砂防学基礎、5. 砂防工学、6. 流域管理、7. 造園学原論・造園材料、8. 造園計画（自然公園）、9. 造園計画（都市公園）、10. 木材特性・木質構造、11. 木材加工・材質改良、12. 木材成分利用 |
|---|

□ 専門記述式試験（配点 5/15）

- ・ 1. 森林科学に関する基礎、2. 国土保全に関する基礎、3. 自然環境・公園緑地に関する基礎、4. 木材等林産物に関する基礎の 4 科目から 1 科目を解答時に選びます。
さらに 1 科目 3 題あるうち、任意の 2 題を解答します。
- ・解答用紙は罫線＋うっすらマス目のある A3 くらいの用紙を 1 題につき 1 枚（両面）使用します。

□ 人物試験（配点 3/15）

- ・面接官 3 人に対して受験者 1 人のいわゆる面接試験で、時間は 1 人 20 分程度です。
- ・ネットからダウンロードして記入した面接カードを当日提出し、基本的にはその内容に沿って質問されます。

□ 政策課題討議試験（院卒） / 政策論文試験（大卒）（配点 2/15）

◎政策課題討議試験は、6人1組（欠席者が居れば4,5人）で与えられた政策課題について討議を行い、試験官3人がその様子を評価する試験です。

- ・課題の内容は試験区分に関わらず、あらゆる政策分野から出題されます。
- ・試験の流れは以下の通りです。

- 1) 課題文と関連資料3つほど（1つは英語資料）が配布されます。
- 2) 資料を25分間で読み込み、自分の意見をA4・1枚にまとめます。まとめ方は文章のみでも図を用いても良く、自由です。
- 3) その後ディスカッションルームへ移動し、各受験者のレジュメのコピーが配られ、意見を1人3分で発表していきます。
- 4) 全員の発表の終了後、30分間の討議に移ります。討議では必ずしも一つの解を出す必要はありませんが、制限時間内に出来るだけ一定方向の意見にまとめることが求められます。司会等の役割分担を決めるかどうかは各グループに任されます。
- 5) 討議終了後、討議を踏まえた自分の意見を1人2分で発表して終了です。
 - ・同じグループになるのはおそらく同じ試験区分の人たちです。今後長い付き合いになる可能性も踏まえて、積極的にコミュニケーションを図りましょう！

◎政策論文試験は、同様の課題と資料が与えられ、小論文形式で解答するものです。制限時間は2時間です。

□ 外部英語試験

- ・平成27年度から新たに導入された試験です。過去5年以内に受験したTOFEL、TOEIC、IELTS、英検での取得点数に応じて、試験の総得点に15点または25点が加算されます。美味しい点数になること間違いなしです。ぜひ早めのご準備を！
- ・受験申込の時点で点数を申告し（ネット）、2次試験の人物試験・政策課題討議試験の日に証明書類を提出します。最終合格した場合には各府省等にも取得点数が伝わるそうです。

その他試験の詳細は、[国家公務員試験採用情報 NAVI](#)等で確認してください。

* 官庁訪問について *

□ 官庁訪問とは？

- ・官庁訪問とは、各省庁に採用してもらうためのいわゆる採用面接です。総合職試験に最終合格すると、3年間有効の合格者名簿に名前が載ることになりますが、合格＝採用ではな

く、実際の採用数は試験合格者数を大幅に下回っています。従って、官庁訪問こそが志望府省庁から採用されるための最後にして最大の難関とも言えます。

・官庁訪問では複数の志望官庁を訪問することになると思います。原則として第一志望の官庁を1日目に訪問するのがベストですが、2日目以降に訪問したからといって採用されないということは（少なくとも環境省自然系では）全くありません。どの省庁を何日目に訪問するか、事前に計画しておきましょう。

□ 環境省の官庁訪問について

※面接の形式や回数は各省庁・採用区分によって大きく異なります。

・環境省の自然系総合職は基本的に個人面接のみで、平成27年度は1次面接、2次面接の計2日訪問しました。もちろん1次で落ちればそこで終了です。

・1次面接は、初日のみ先着順、2日目以降は事前予約した上で面接を受けました。

8時半を目途に一旦待合室に集合した後、採用担当職員の方の指示に従って面接を受けに行きます。定員は1日に20名程で、午前・午後①・午後②の3つのグループに分かれて面接を受けました。初日は人数が多いので、集合時間直前に来ると午後②になってしまうことがあります。採用のされやすさには全く影響しないのでご安心を。

・2次面接は、1次面接の結果通知メールにより指定された日時に訪問しました。

・面接では人物試験と同様に、面接カードを提出した上で面接を行います。各府省の面接カードは、2次試験後ぐらいからHPに掲載されます。

□ 環境省自然系総合職の平成27年度官庁訪問スケジュール

日程	内容
8/5(水)~7(金)	1次面接 ➤ 自然系職員1~2人と20~30分の面接×3回
8/10(月)~12(水)	2次面接 ➤ 自然環境局の幹部職員4人と20分の面接×1回
8/18(火)	内々定解禁

上記の内容は全て平成27年度の情報です。最新の情報や詳細については人事院や環境省の採用ホームページ等や、必要に応じて採用担当者に確認してください。

利用した参考書・資料一覧

多くの人が利用したものを青字、特に多くの人が利用したものを赤字にしています。

【基礎能力】

◎過去問

- ・ **総合職試験過去問** <人事院、大学の就職支援課、先輩から入手したもの>
- ・ 国家総合職（国家1種）教養試験 過去問 500 <実務教育出版>

◎知能分野（文章理解、判断・数的推理、資料解釈）

- ・ **新スーパー過去問ゼミ シリーズ** <実務教育出版>
ー 数的推理、判断推理、文章理解・資料解釈
- ・ 過去問新クイックマスター シリーズ <LEC 出版>
ー 数的推理・資料解釈、判断推理・図形
- ・ 畑中敦子 シリーズ
ー 数的推理、判断推理、資料解釈 ザ・ベスト <エクシア出版>
ー 天下無敵の数的処理（1）、（2） <LEC 出版>

◎知識分野（自然、人文、社会、時事）

- ・ **速攻の時事（平成 27 年度試験完全対応）** <実務教育出版>
- ・ 速攻の時事 実践トレーニング編（平成 27 年度試験完全対応） <実務教育出版>
- ・ 出るところ過去問 自然科学セレクト 55 <TAC 出版>
- ・ センター試験用の生物・物理・化学の参考書

【専門試験】

◎過去問

- ・ **総合職試験過去問**
- ・ **一般職試験過去問**
- ・ 都庁・特別区過去問
- ・ 大学院入試過去問

◎必須問題

- ・ 高校地学 I・II の教科書

◎科目 1～3：森林系

- ・森林・林業白書 <http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/>
- ・森林・林業実務必携 <朝倉書店>
- ・林野庁 HP <http://www.rinya.maff.go.jp/>
- ・森林生態学 <共立出版>
- ・改訂 現代森林政策学 <日本林業調査会>
- ・現代の林学シリーズ <文英堂出版>
 - －林木育種学、森林水文学
- ・森林土壌学概論 <博友社>
- ・森林立地調査法－森の環境を測る <博友社>
- ・森林・林業学習館 <http://www.shinrin-ringyou.com/>
- ・森林総合研究所 <http://www.ffpri.affrc.go.jp/>
- ・造園施工管理技士 <http://www.ads3d.com/mondaizou/>
- ・森林土壌博物館 http://cse.ffpri.affrc.go.jp/masamiti/soiltype/soilmuse_index.html
- ・フォレストナーネット <http://www.foresternet.jp/>
- ・RINGYOU.NET <http://www.ringyou.net/>
- ・林学指南@公務員試験 <http://ringakushinan.web.fc2.com/index.html>
- ・おもしろ林学 私の森.jp <http://watashinomori.jp/study/index.html>
- ・SEGES 緑の認定 認定サイト <http://www.seges.jp/index.html>
- ・授業ノート・レジュメ

◎科目 7～9：造園系

- ・各種法条文 <http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>
- ・環境省 HP <http://www.env.go.jp/index.html>
- ・環境白書 <http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/>
- ・国交省 HP <http://www.mlit.go.jp/index.html>
- ・EIC ネット：環境情報案内・交流サイト <http://www.eic.or.jp/>
- ・環境用語集 <http://www.eic.or.jp/ecoterm/?gmenu=1>
- ・生物多様性-Biodiversity-（環境省）<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/index.html>
- ・国立公園の法と制度 <古今書院>
- ・2級造園施工管理 徹底研究 <オーム社>
- ・環境デザイン学－ランドスケープの保全と創造－ <朝倉書店>
- ・造園施工管理シリーズ <日本公園緑地協会>
 - －法規編、技術編
- ・都市公園技術標準解説書 <日本公園緑地協会>
- ・自然公園実務必携 <中央法規出版>
- ・ビオトープ管理士計画部門2級問題集

- ・日本の国立公園（上・下）<山と溪谷社>

◎科目 10～12：木材系

- ・木質科学講座 1～12 <海青社>
- ・木質の物理/構造/化学 <文英堂出版>

【面接（人事院面接・官庁訪問）】

- ・公務員試験 現職人事が書いた本シリーズ <実務教育出版>
 - －「自己 PR・志望動機・提出書類」の本
 - －「面接試験・官庁訪問」の本
- ・各省庁 HP
- ・説明会で配布されたパンフレットや資料
- ・環境白書

【その他】

- ・平成 26 年度内定者の声

🌱 内定への道 🌱

Aさんの場合

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】学部4年・男性・22歳（2015年4月）

【併願先】東京都I類B（造園）

【参加した説明会・回数】1次試験後の合同説明会、霞ヶ関openゼミ等8回程度

【試験区分】森林自然環境（大卒試験） 【専攻科目】造園学

【1次試験選択】①造園学原論・造園材料、②造園計画（自然公園）、

③造園計画（都市公園）

【2次試験選択】自然環境・公園緑地に関する基礎（No.7及びNo.9）

志望動機

●きっかけ

埼玉の田舎で田んぼの中で遊びながら育ち、物心ついたときから漠然と「自然の中で働きたい」と思っていました。地球温暖化によりホッキョクグマの生活が脅かされて「かわいそうだ」といった報道を中学生のときにテレビで見て違和感を覚え、環境問題に関心を抱くようになりました。そうした経緯から、大学では人と自然のかかわりについて学びたいと思い農学部に入りました。研究室選びで悩んでいた大学2年の冬に環境省総合職自然系の存在を知り、興味本位で説明会に出て直感的に「これだ！」と感じ今に至ります。

●なぜ環境省総合職自然系（レンジャー）？

単に直感だけで決めたわけではなく色々考えた上で「自然を保全する意義を多くの人々に理解してもらいたい」という自分の思いを実現するには環境省が一番という結論に至りました。他省庁はベースが産業やインフラであり、自然の保全をメインに据えることは少ないように思われました。地方自治体も調べましたが自然保全を専門としたキャリアパスが難しいと感じました。日本や世界全体の仕組みを変える、創りあげるといった仕事に積極的に携わりたいと考え、一般職ではなく総合職を選びました。また、私は林学系でないので別個に対策をすることは難しいと思ったのも大きな理由です。民間のインターンに行ったり、冷やかし程度に説明会に行ったりしましたが、ピンとくるものがなかったので民間は全く受けませんでした。併願先は都市公園と自然公園の両方に携われること、オリンピックで集中する資本を活用できることを魅力に感じました。公務員ダメなら院に進めばいいやと安易な発想で就活していました。これができるのが学部生の強み(?)だと思います。レンジャー一本で就活するにしても他省庁や地方自治体、民間のことをある程度知っ

ておくと、相対的にレンジャーという職業がわかり、志望動機の整理もできると思います。

勉強方法

大学受験で一浪したので大学3年の時に総合職試験を試しに受けることができました。勉強していなかったのが当然1次で落ちたのですが、1年後に向けたイメージを立てることができました。(浪人したことが役立った機会はこれ以外にはないと思います。)本気で総合職を狙っていなくても浪人経験者や院生などで就活する前年度に受けられるようなら受けることをおすすめします。それで受かったら儲けものですし。(総合職の最終合格は3年間有効です。)

【TOEIC】

過去にIPで730を超えたことがあったのでいけるだろうと高を括っていたら10月に受けたTOEICでは点が足りませんでした。その反省を踏まえ、1月の試験では参考書で勉強してなんとか730点を超えました。最終合格のボーダー上以外では英語加点がなくてもそれほど大きな影響はないはずなので、自身の英語のレベルと相談して600点、730点、もしくは加点を使わないといった判断をしていただければと思います。ただ、1次の基礎能力試験でも英語の配点は大きいので加点を目指して勉強して損はないと思います。(英語に自信のある人は入省後に人事院の制度などで留学するチャンスもあるようです。私もチャンスがあれば行ってみたいです。)

【1次：基礎能力試験】

一年前に受けた時点でそれほど点数が悪くはなかったのですがここまでハードには勉強しませんでした。数的処理、判断推理は10月ごろから少しずつ勉強しました。問題集全部ではなく、対策すれば点が望めそうな問題を重点的に解きました。3月ごろから時事対策と文章理解、資料解釈の問題形式への対策をしました。4月に模試を受けてそこから本番までに時間配分等の修正をしていきました。理科社会はコスパが悪いのでほとんど対策しませんでした。全部真面目に解いていったら間違いなく時間が足りなくなるので時間配分や解く順番に関しては十分に考えるべきだと思います。

【1次：専門多肢選択式試験】

あまり点がよくなかったです。どれくらいかという基礎能力と同じ点数でした。1次はギリギリだったと思います。なので、基本的には他の優秀な内定者の方々の意見を参考にいただければと思います。1) 過去問の精査が不十分だった(5年分しかきちんと回答を作らなかった)。2) 最近の出来事が十分に理解できていなかった(鳥獣保護法改正など)。3) 割り切って暗記できなかった(特に造園学原論・造園材料)。4) 林学系の知識が乏しかった(共通問題でボロがでました)。以上4点が点の悪かった主な理由だと思っています(過

去問はそれなりにできていたのですが…。造園系統で受験される方は反面教師にしていた
だけだと思います。

【2次：専門記述式試験】

本格的な対策は1次が終わってから始めました。ただ、1次の勉強を始める前に過去問は
一通り目を通しました。1次と2次で同じ系統の問題を選択する場合はそうすることをオス
スメします。1次の勉強をしながら「記述だったらこういう問われ方するかも」と意識して
勉強するだけでも2次の対策になると思います。1次と同じく過去問の分析が第一だと思
います。それと同時に、最近の話題について1次でわからなかったところを復習するこ
とをすすめます（私は1次でわからなかった鳥獣保護法がまた出てきて絶望しました）。

【2次：政策論文試験】

1度は模試を受けたり、大学のキャリアセンター等を使って過去問を添削してもらったり
する機会を設けるといいです。どうしても気づかない自分のクセがわかります。基本的
にはそれを改善して、テンプレートに合わせた書き方を覚えるだけでいいと思います。特
に小論文に自信のない人（過去問を見て「これどうやって書いていいか検討つかん…」と
思った人）は1次の勉強の追い込みで忙しくなる前に1度は先に述べたような機会を作
るべきだと思います。

【2次：人物試験】

民間を受けていなかったのがこれが就活で初めての面接でした。割と緊張しました。た
だ、内容自体は面接カードに沿った普通のコンピテンシー型面接なので特に返答に困るこ
とはなかったと記憶しています。準備は面接そのものよりも面接カードを書くことに苦
勞しました。面接慣れしていなかったのもあって、面接カードの添削と軽い模擬面接は
大学の方でもらいました。民間を受けていて面接慣れしている人にとっては楽な面接の
部類に入ると思うので気楽に受けていただければと思います。ただ、受験地によっては
この面接の面接官と官庁訪問で再度対峙したといったケースもあったそうなので、ある
程度志望先等の一貫性は保った方がいいかもしれません。

※試験結果について

1次の専門多肢選択式試験でやらかしましたが最終合格時の席次は大卒のなかで中の下
くらいで落ち着いたので、1次がギリギリでもさほど問題はないと思います（今年は2次
試験が地方上級の試験とかぶったせいか2次試験の辞退者が多かったおかげかもしれ
ませんが）。

【官庁訪問】

大学が遠方で実家が霞ヶ関から約100分という立地なので官庁訪問初日の前日のみ南千

住の安宿（1泊3000円程度）に泊まり、それ以降は実家から通いました。南千住の宿はネットで調べてもらえればとすぐ出てくると思います。日比谷線1本で霞ヶ関に行けるので割と便利でした。

環境省には1ターム目の初日と2ターム目の2日目に訪問しました。今年から官庁訪問が遅くなりお盆とかぶったのもあり、地方事務所への訪問はありませんでした。初日は7時半に集合場所に着きましたが8人目でした。早い人が受かるというわけではないので特に早く行く必要はないと思います。初日は3回面接があり面接官の人数は2人→1人→1人でした（いずれも受験者側は1人）。2日目は面接官4対受験者1の面接一回のみでした。質問は面接カードに沿ったものが多かったと記憶しています。卒論の研究の対象が国立公園の利用者に関することなのでそれについても多く聞かれました。また、面接官の方に逆に質問をする機会もあったので聞きたいことは準備しておくが良いと思います。

官庁訪問では控え室での待ち時間が結構あります。私は緊張すると口が達者になるタイプなので他の受験者との会話を楽しみました。レンジャーを志す人がこれだけ一同に会することもないので、いろいろ話してみるといいと思います。

※他省庁について

環境省以外では林野庁に2回、国交省に1回行きました。

林野庁では色々専門的な話をさせていただきました。趣味で登山をするといったら環境省以上に受けが良かったです（笑）。国交省の滞在時間は短かったのですが職員の方が私の興味に合わせて話してくださいました。林野庁、国交省ともに環境省よりも体育会系の雰囲気が強かった様に感じました。

アドバイス

●総合職のレンジャーという職業の相対化

志望動機の所にも書きましたが、「なんで総合職のレンジャーとして働きたいの？」という問いに答えるためにもこの職業を相対化することは不可欠だと私は思います。志望者ごとにレンジャーとしてやりたいことは異なるとは思いますが「他省庁や民間じゃダメなの？」「一般職でもいいのでは？」といったことには自分なりの答えを持っておくべきです。そうしたことを整理しないまま官庁訪問に臨むと面接で突っ込まれた時に回答に苦しむことになるかもしれません。

●試験勉強を始める前にまずは現状把握

この内定者の声には（他の内定者分を含め）試験勉強の方法について多く書かれていますが、試験勉強に必要な時間や労力は人によって大きく違うと思います。総合職のなかでもレンジャー志望は在籍（出身）大学や専攻が多様だと思います（今年の内定者はだいぶ偏りましたが例年はそうでもないです）。なので、まずは総合職を受験することを検討し始

めた段階で直近の1次試験の過去問を解くことを強くすすめます。その結果をみてから志望するかどうか、勉強計画をどうするかを考えたほうが良いと思います。少なくとも過去問を解く前から「国家公務員の総合職なんて絶対無理…」なんて思うことは非常に勿体無いと思います。

●現場に行くべきか、レンジャーに会うべきか

多くの国立公園に行き、多くのレンジャーに会って話を聞くに超したことはないと思います。しかし、当然ですが行った国立公園の数や会ったレンジャーの数で採用されるわけではありません。国立公園に行ってみて何を感じたか、レンジャーから聞いた話のなかで何が印象に残り、それは何故印象に残ったか。そうしたことを自分の自然に対する考え方の中に取り入れることが重要だと思います。ただ、さすがに全く国立公園に行っていない、レンジャーと会ったことがない、というのは情報不足が過ぎると思うので、そうした機会の不足が足かせにならない程度には国立公園にいったり、レンジャーに会ったりすべきだと思います。

最後に

ここまで偉そうにいろいろアドバイスを書いて来ましたが、本格的に勉強を始めてから内々定をいただくまでの数ヶ月は振り返ってみるとあっという間でした。しかしその間は公務員試験と学業の両立がままならず、本当にしんどかったです。就活の解禁が今年から遅くなってフィールド調査をする学生は、自分も含め皆大変そうでした。自覚はあまりないのですが内々定をもらってから雰囲気は露骨に明るくなったと周りからは言われました(笑)。全てを完璧にこなすことは無理だと開き直りつつ、レンジャーになることをあきらめずに志して来た結果、内定までたどり着くことができました。来年からレンジャーとして働くことがとても楽しみです。これを読んで下さった皆様の進路選択に少しでもお役に立てたら幸いです。

スケジュール

	2014 年	2015 年
1 月	説明会に参加し漠然とレンジャーを目指し始める	宗谷岬から初日の出を拝む TOIEC の結果に安堵
2 月	研究室に配属される	それなりに勉強し始める
3 月		釧路湿原細岡展望台に行く途中に車が横転 空港にシカが侵入し霞が関 OPEN ゼミに向かう 飛行機が遅延 不運+前厄だったので北海道神宮でお祓い
4 月		さすがにまずいと思い本腰入れて勉強を始め 模試を受ける 息抜きに函館に桜を見に
5 月		総合職 1 次 専門多肢式で撃沈 しんどかった
6 月	利尻岳登頂 登山に目覚める	都 1 次 総合職 2 次 しんどかった
7 月		調査で大雪山と知床へ 羅臼岳登頂 都 2 次 最終合格に安堵 しんどかった
8 月	民間の土木系コンサルでインターン 苗場山登頂	連日猛暑日のなかでの官庁訪問 合間に両神山登頂 内々定
9 月	大雪山の紅葉に感動	大雪山の麓で 1 週間調査 羊蹄山登頂
10 月	数的を気休め程度に始める TOEIC 受験	内定式 その 2 日後に学会発表 精力的に旅行 内定者の声執筆
11 月	TOEIC の結果にテンションを下げる	卒論
12 月	ノシャップ岬で大晦日の日の入りを拝む	卒論

Bさんの場合

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士課程2年・女性・24歳

【併願先】一般職（林学）、独立行政法人

【参加した説明会・回数】合同説明会、政策シミュレーション、JOBトーク、
パネルディスカッションなど複数回

【試験区分】森林自然環境（院卒試験） 【専攻科目】農学（雑草学）

【1次試験選択】①森林環境科学、②造園学原論・造園材料、③造園計画（自然公園）

【2次試験選択】森林科学に関する基礎知識（No. 1 及び No. 2）

志望動機

自分にあったスタイルで、自然環境に携わっていくことのできる場として環境省を選びました。私が就活に際して重視したのは、

- ・自然環境分野に利用と保全の両面からアプローチできる
- ・地域（ミクロ）と国全体および国際（マクロ）のどちらにも関われる
- ・現場がある

という3点でした。これらすべてを満たすことのできる職種は多くはなく、結果的に国家公務員を志望することとなりました。

具体的な志望動機としては、以上の3点に加え、人と自然の関わりについて学ぶなかで、自然資源の利活用を促進することによって、人々の自然環境に対する理解を深めたいと思うようになったと書きました。

当初は現場勤務の機会の多い一般職を本命にしようかと考えていましたが、自分の適性を鑑みると現場中心の一般職よりも、様々なことに挑戦できる総合職のほうが向いているのではないかと思うようになりました。

ターニングポイント

幼少期には、動物（特に昆虫）、植物が好きで図鑑や飼育・栽培マニュアルをよく読んでいました。近所の田んぼや水路、休耕田でよく遊んでいましたが、宅地化が進み、残念ながら今はほとんど残っていません。また、書籍や学校教育（琵琶湖フローティングスクール、イネ栽培など）を通じて環境や農業に関心を持つようになりました。身近な自然が容易に失われた経験、そして生物に関心を持つことに対してあまり周囲の理解が得られなかったことが、私の原体験になっているように思います。

高校時代には学業・部活動の傍ら、家庭菜園にのめりこみました。ハーブや山菜、多年生植物の栽培をしていました。また、このころ食糧価格の高騰から食料安全保障が注目されていたこと、『文明崩壊（J・ダイヤモンド）』を読んで文明と食料・環境問題に関心をも

ったことがきっかけで農学を志すようになりました。

大学入学後、国内外の農村・山林におけるフィールドトリップにいくつか参加しました。人間活動と自然環境の関係性に対するアプローチを模索するため、自然環境、開発・保全、環境保全型農業など興味の赴くままトピックを選びました。実際の現場における問題には自然科学だけではなく社会・経済など様々な要因が関わっていることや、課題解決のためには利害関係の調整、すなわち関係者に対する配慮が不可欠であることを学びました。また、いくつもの場所を訪れる中で、様々な規制や制度の結果が国・地域ごとに異なる現状を作り出していることにも気づかされました。

研究分野を選ぶ際には、自然科学的な専門性も重視したいと思い、雑草学（雑草生態学）を専攻することにしました。雑草はその定義からして人間活動との関わりが非常に深く、人間活動に悪影響を与える耕地雑草・外来雑草から社会状況の変化によって絶滅が危惧される種まで守備範囲が広いことが魅力であると感じました。卒業研究では緑化植物の候補となる在来草本の生態を取り扱い、その延長で応用面にも興味を持って、修士でアメリカに1年間留学して環境園芸学を学びました。私が在籍したコースはいわゆる専門職大学院で、研究よりも課題解決を目的とした応用・実践を重視しており、施工計画のデザインや自然再生プロジェクトを通じて、目標設定の際の合意形成や地元住民の協力を得ることの大切さ、継続管理の難しさなどを学びました。私が滞在していた都市はアウトドアレクリエーションが盛んなこともあってか、自然環境に対する意識が非常に高く、市街地でも在来植生を生かした公園が数多く存在していました。在来植物種苗の供給体制整備や外来植物の情報蓄積も進んでおり、質の高い自然に対する需要の大きさに驚かされました。

そして、留学中に訪れたアメリカの国立公園も、環境分野を志すきっかけのひとつになりました。ネームバリューに違わない雄大な景観とよく整備された設備や制度、そして様々な体験学習プログラムは非常に魅力的なものでした。日本とアメリカの国立公園、そしてレンジャー（自然保護官）は性質や規模がかなり異なっており、日本では地域制をとっており、許認可などの裏方仕事が大きなウェイトを占めていることなどが特徴的ではありますが、象徴的な自然を通じてその素晴らしさを人々に伝えることができるという点では同じであるように思いました。

留学前からうすぼんやりと環境省を意識してはいましたが、昨年秋の時点では何をやっているかもよくわからず、自然系という採用区分や自然環境局すら知らない状態でした。帰国後、久しぶりに既に就職先が決まった友人たちと会ったところ、環境省も受験して他省庁に内定した友人がおり、彼女にいろいろ話を聞いて本格的に国家公務員を志望することを決めました。

勉強方法

私は留学先からの帰国が8月で、その後修論研究のテーマを変更したため、就活の時期であってもある程度の実験をこなさねばならず、研究と就活の両立には苦戦しました。情報収集に力を入れていたので、試験勉強の開始が遅くなり、本格的に勉強を開始したのはGW後でした。試験成績は真ん中やや上程度、あまりおすすめできるやり方ではないかもしれませんが、環境省では成績が重視されないということで、なんとか滑り込むことができました。

【1次：基礎能力試験】

問題集を1冊購入し、専門試験の気分転換がてら軽く問題を解き、形式を把握しました。日英の文章理解はほぼ完答でしたが、センター数学すら怪しい私には数的処理は難しく、少しだけ練習をしてから諦めました。判断推理は力技と勘で何とかかなりそうな手ごたえを感じたので、解法に目を通しました。時事問題は『速攻の時事』をさっと読み、ネットニュースで関心のあるトピックを定期的にチェックしていました。直前には、大学のキャリアサポートルーム経由で過去問1~2年分を入手し、時間を見ながら解きました。試験当日には、当たったらもうけものくらいの気持ちで歴史年表を眺めていました。一般的には確実に得点源になる数的などを固める方が多いようですが、文系寄りの私のように得意不得意に極端な偏りがあってもなんとかなります。

【1次：専門多肢選択式試験】

私が試験科目として選択した森林科学や造園分野の専門には疎かったので、当初は資料選びからまごつきました。森林・自然環境区分向けの問題集はありませんので、過去問（5年分くらい）や内定者の声をもとにWebページをたどったり、関連書籍を探したりして勉強しました。ある程度関心のある分野なので、半分ネットサーフィンをしているような感覚で勉強でき、それほどストレスには感じませんでした。私はデジタル媒体が苦にならないので、白書や省庁の資料はPDFをダウンロードし、過去問はデータ化したものをタブレットに入れて持ち運び、通学時間などに目を通すようにしていました。選択科目ごとに分けるというような器用な真似はできなかったので、見込みのありそうな5~6科目分を勉強し、本番で問題を見て選択科目を決めました。一般職試験（選択科目制でない）を勉強する際に重複する部分があったため、そちらは比較的楽に勉強することができました。

【2次：専門記述式試験】

過去問を見て、どのような範囲が出そうか推測しながら関連資料に目を通しました。あたりをつけたテーマが出たのでラッキーでした。雰囲気は大学院入試に似ていると感じたので、特に一次試験と違う対策はしませんでした。

【2次：政策課題討議試験】

大学のグループディスカッション練習で一般的な流れを学び、環境省主催のグループワークに参加したことで、初対面の人や他分野の人と適切にディスカッションを進めることの難しさを理解しました。説明会や受験会場で知り合った友人たちと情報交換を進めるうち、互いに練習の必要性を感じていたことがわかり、グループを作って模擬練習をすることになりました。私は受験生に同期がおらず、分野外だったこともあって情報が不足していたため、グループ内で行う情報交換は非常に役に立ちました。問題自体が出回っていないので、問題形式や時間配分、注意点などについて各メンバーの情報を共有し、再現問題を用いて練習を繰り返しました。メリット・デメリットと解決策の考え方、妥協点や優先順位、レジユメのまとめ方などについて勉強し、議論が形になるよう心がけました。本番には緊張のせいもあって練習通りとはいきませんでした。どうにか乗り越えられました。何より、一緒に受験している仲間がとても素敵な人たちばかりで、とても刺激的で楽しい時間を過ごすことができました。私の場合、部活運営で会議をしょっちゅう開いていたことや、国際系の研修や留学先でグループワークやディスカッションの経験があったことも役に立ったように思います。

【2次：人物試験】

基本的に面接カードに添った内容で、ほとんど想定外の質問は出ませんでした。しかし、私は利用と保全のバランス感覚というあいまいな表現について具体的な説明を求められ、しどろもどろな返答しかできませんでした（難しい問題だよねとフォローしていただいてしまいました）。取りこぼしが無いようきちんと説明できるようにしておくべきだったと思います。後で面接評価は悪くなかったと聞いて意外に思いました。森林・自然環境区分の人事院面接官は林野庁、環境省、国交省造園職など関連分野の方が担当されているようで、のちの官庁訪問でもお会いすることがありました。

試験に際しては、グループディスカッションのメンバーで面接カードの読み合わせを行い、お互いに添削したり、質問を考えたりすることで対策しました。同区分の受験者が多いとはいえ、専門の異なる人も含んでいたことが結果的にとてもよかったと思います。どうしても専門的な説明に偏りがちなところを、ある程度の科学的素養をもち、異なる専門に属するという、客観的な視点を加えることができたからです。

【官庁訪問】

今年の官庁訪問は採用時期変更の影響で変則的だったので、昨年分の資料も併せて参考にされるとよいと思います。

官庁訪問に必要な面接票についても、人事院面接同様にグループ内で添削しました。ところが、訪問直前に実験がたてこんだ上、民間の面接まで無理やり詰め込んだので、面接票（ES。省庁によって名称は異なる）も満足に書きあげられず、満身創痍で官庁訪問に臨む

ことになってしまいました。睡眠不足と体調不良ではほぼ絶食状態で、ゼリー飲料で何とか生き延びました。行政職と比べれば技術職、特に森林・自然環境区分の待機時間は比較的短いのですが、一日目は人数が多いこともあって、朝8時から夜6時ごろまでかかりました（全3グループ中2グループ目でした）。体が資本ですので、本当に体調管理には気を付けてください。また、面接票は手書きなどの形式にこだわるよりも、内容をわかりやすく、きちんと詰めておくことが大切だと思います（個人的な意見です）。私はなんとか書き上げた面接票に誤字を発見してしまい、慌ててテープで修正したものを提出する羽目になりました……が、面接官の手元にわたるのはコピーなので問題ないそうです（汗）。裏面は特に記入しませんでした。面接時間は限られているので、どうしてもアピールしたいことがあれば書くという程度で問題ないと思います。

今年は地方訪問がなく、一日目にブース形式で10年目くらいの若手～中堅の方2名にコンピテンシー面接を受けた後、調査官との雑談を交えた面接、職場での面接、2回目の訪問で幹部面接という流れでした。業務説明はあまりなく、政策について深くつっこまれることもなかったのもので、面接が終わった後はこれだけでもう決まるの？と若干不安を感じるほどでした。一方で、短期決戦だったので体力面や研究面では非常にありがたかったです。

ちなみに、官庁街のすぐ近くに日比谷公園がありますが、私にとっては暑苦しいオフィス街におけるオアシスでした。面接後、示し合わせたわけでもないのに同区分受験者とやたら顔を合わせたのでびっくりしました。図書室も素敵なので、ぜひ気分転換に立ち寄ってみてください。

アドバイス

私は環境省のほかには林野庁、国土交通省（造園）も官庁訪問しました。どの省庁でもある程度私の希望していることに取り組めると考えて訪問しましたが、それぞれ、問題へのアプローチ、関係のある利害関係者の種類、そして職員の方の雰囲気などが随分異なっているように感じました。あくまで主観ですが、環境省はバックグラウンドが多様で個々人のカラーが強いように感じ、林野庁は農学部森林系とよく似た雰囲気かつ比較的トップダウン、国土交通省は巨大な組織ということもあってかっちりした印象を受けました。人によって相性があると思うので、説明会や職場訪問、官庁訪問で実際の職員の方に出会うことがとても大切だと思います。そしてそれぞれの場で何ができるのか、どのようなことが求められているのか、どのような困難があるのかを把握することが、適切な進路選択の近道になるのではないのでしょうか。

また、他の内定者の皆さんを見ていると、それぞれ分野などは異なっていますが、研究はもちろん、サークルなどの課外活動や海外経験といったさまざまな機会を通じて積極的に人と人をつなぎ、精力的に活動して来られた方がとても多いです。自分の適性を考える際、自分が他者とどのような関わり方をしてきたかを振り返ってみることが大切なのではないかと思いました。

昨年に引き続き、今年も女性が自然系内定者の過半数を占めていますが、特に女性にとっては今後のワークライフバランスなども気になるポイントになるかと思います。私自身はまだ働いていないので何とも言えませんが、転勤や家族計画などについても一度しっかりと考えてみることをおすすめします。また、私は非体育会系でスポーツ経験がないこと、地域の方々との直接交渉経験があまりないこと、お酒が飲めないことをかなり不安視していたのですが、(コミュニケーション力などを高めるという意味で、もちろんあるに越したことはないでしょうが) 必須ではないということで、ひと安心しました。環境省は多様な人材を求めているらしいので、ひとくりにこう！とは言えないのですが、このようなケースもあるということで心に留めておいていただければ幸いです。

その他

一地方出身者として

・説明会

私は地方出身ではありますが、幸い説明会などは近場の開催が多いほうで、一般職向けを含め、複数回イベントに参加しました。環境省主催の場合、自然系と事務系・理工系では業務内容がかなり異なるので、できるだけ自然系に関わりのあるものを選ぶようにしていました。それでも、実際にレンジャー(ここでは環境省自然系職員を指します)の方にお会いできたのはほんの2~3回、狭義のレンジャー(自然保護官)にお会いできたのは、友人と一緒に採用人事の方をお願いしてアポをとっていただいた1回きりでした。実際に職員の方とお話すること、国立公園などに行くことは職務内容の理解を深めるうえで不可欠です。特に今年は地方環境事務所訪問がないこともあってか、実際に何をするのかを知っていた志望者が多く採用されているように思います(あくまで私見です)。積極的に行動することがとても大事になるでしょう。公務員試験には情報戦としての側面もあります。先輩や友人、受験者などの人脈をフル稼働して、しっかり情報を集めておきましょう。

・交通手段・官庁訪問中の生活など

官庁訪問では新幹線で2往復、一泊4000円弱の南千住のビジネスホテルに泊っていました。電車一本(30~40分程度)で霞が関まで行けるのがよかったです。幸いそれほど帰宅が遅くなることはありませんでしたが、門限がないのは便利だったと思います。女性用フロアがあり、買い物にも便利でしたが、地域の治安はそれほど良くないと感じました。

また、私はいまだにフィーチャーフォン(ガラケー)ユーザーなのですが、官庁訪問予約やら地図やらなんやらでインターネット接続はあったほうがよいと思い、モバイルルータをレンタルして持っていきました。ところが、私以外の内定者は全員スマホで、LINEで連絡を取り合うことになったために結局ルータを買いました(笑)。

民間就活

私は熱心に民間就活をしなかったのであまり参考にならないかもしれません。私は内定のない状態で官庁訪問に突入しました。一般職は受けていたものの、今振り返ると背水の陣だなあ…とヒヤッとします。民間の説明会にも参加したのですが、なかなか就活の軸として挙げた条件を妥協することができなかつた（特に環境分野を事業のメインとしている企業が非常に限られていた）ために、モチベーションを保つことができませんでした。逆に言うなら、民間との比較を通じて国家への志望が強まった面もあります。さらに、就活スケジュールの変更で大手の選考と官庁訪問が重複したため、候補として考えていた民間もほとんど諦めてしまいました。公務員試験の情報収集や試験勉強に時間をとられる中で民間のESを書くのは非常にしんどかったですが、関連業界を中心に見ていたので比較はしやすかったですし、志望動機はほぼ共通していたのでよい練習になりました。

さいごに

随分と長い文章で申し訳ありません。就活が始まってからはばたばたの毎日で、日々をやり過ごすので精一杯でしたが、今振り返ってみるとあつという間だったようにも思えます。せっかくの貴重な時間と労力をつぎ込むわけですから、公務員になるかならないかに関わらず、皆さんが実りある就活・受験ライフを送られるよう祈っております。まずは受験仲間を見つけてみてはいかがでしょうか。

スケジュール

	2014 年	2015 年
1 月	交換留学	実験
2 月		運転免許取得。内定者のお話を伺う。 環境省（主に自然系）イベントに複数 回参加
3 月		就活解禁（プレエントリー開始、20 社程度）・説明会（国家・地方公務員）、 期末報告、伊勢志摩国立公園
4 月		公務員試験出願、環境省職員訪問＋六 甲山
5 月		説明会（民間 5 社程度）、総合職試験 （一次）、比良山
6 月		ES（2～3 社）、一般職試験（一次）
7 月	アメリカの国立公園を訪問・帰国	ゼミ、総合職試験（二次）
8 月	実験開始	実験、民間面接（1 社）、官庁訪問（1 日目環境省、2 日目林野庁、3 日目国 交省）
9 月	自動車教習開始（地方勤務に必 須！）	実験
10 月	説明会に行き始める。サンプリン グ	最終面接・内定、中間発表、資格試験
11 月	実験	
12 月	ゼミ	

Cさんの場合

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士課程2年・女性・24歳

【併願先】東京都庁など

【参加した説明会・回数】できるだけ。(3回以上・・・?)

【試験区分】森林自然環境(院卒試験)【専攻科目】地学・造園系

【1次試験選択】①造園学原論・造園材料②造園計画(自然公園)③造園計画(都市公園)

【2次試験選択】自然環境・公園緑地に関する基礎

志望動機

自分が小学生のころにさまざまな自然豊かな土地を訪れたことをきっかけとして、自然に興味を持つようになったのではないかと考え、今度は自分が子供たちにそのきっかけを与える立場に立ちたいと思ったため。

勉強方法

【まとめ】

公務員試験の受験を意識し始めた時期は割と早かったのですが、思うように勉強に身が入らない時期もありました。そのことについて後悔もしましたが、最終的には気持ちを切り替え、試験に臨むことができました。試験本番は思っているように本領を發揮できないこともありましたが、あきらめずに最後まで挑戦できてよかったです。

【1次：基礎能力試験】

☆資料解釈・判断推理・数的処理

クイズ感覚で勉強しました(思い込みが大事)。

解法等はあまり頭に入れると混乱してしまいそうだったので、一冊の参考書で、解法やコツを習得した後は、練習問題を増やすためにその他の問題集も活用して勉強しました。

☆物理・化学・生物・数学等理系科目

理系科目は高校の参考書を用いて基本公式等を確認しました。

☆社会・人文等文系科目

元々歴史が苦手なこともあってあまり手をつけませんでした。

☆時事問題

時事問題の参考書を入手して勉強しました。また、気分転換も兼ねて、政治や法律に詳しい友人に教えてもらったりもしました。

【1次：専門多肢選択式試験】

大学院の研究に関わる分野もありましたが、大学では別の専攻に所属していたため、試験と研究を兼ねて勉強しました。手あたり次第に関係のありそうな資料を集め、それらをひたすら読み、自分なりにまとめるなどして勉強しました。本誌の中にも参考書一覧のページがあるのでそれを参考にしてみてください。

本番では、裏を読もうとして数問間違えました。本番では、自分の試験までの勉強量を信じることも大事かもしれません。

【2次：専門記述式試験】

一次試験後、合格できた自信がなかったため、二次試験対策にあまり集中できず、過去問を解いた以外は一次試験の専門多岐選択対策の資料を読み返した程度で本番を迎えてしまいました。考え方を問う問題が多く、基礎的な知識を持っていれば全く歯が立たない問題は少ない反面、限られた時間の中で自分の考えをまとめる力が必要だと感じました。過去問を入手して、時間内に解く練習をしたり、自分で問題を考えてみたりするといいかもしれません。

【2次：人物試験・政策課題討議試験】

講座等の申し込みに間に合わず、就活用の面接対策本やインターネットの情報に目を通す程度で本番を迎えてしまいました。試験より前に環境省と関わりのあった方にお会いして、自分を見つめ直す時間がつくれていたため、何とか乗り越えることができましたが、大学の試験対策講座等に参加しておけばよかったなあ、と思いました。

【環境省官庁訪問】

第一クール初日は集合場所に着いた順番で面接が始まるのですが、今年は遅く来たから面接できなかったということはなく、集合時間に来た人は全員面接を受けることができたようです。

特に官庁訪問に関しては、この内定者の声を参考に情報収集をしている方が大部分のようなので（みなさんはもう読まれているわけですが）、他の内定者の方々の体験談を参考にしてみてください。下にも書きましたが記録不足でみなさんにお伝えできる情報が少なくすみません。

アドバイス

私は身近にOBや受験者が少なかったこともあり、内定者の中で最も少ない情報量で受験したのではないかと思います。特に近くに情報源が少ない方々は、直前に焦ることのないよう、早めに情報収集を始めることをお勧めします。

その他

自分が内定者の声を参考にすることなく受験したため、執筆に参考になる記録を残しておらず、情報が少なくてすみません。細かい内容については、過去の内定者の声を参考にされた、私以外の内定者の文章の方が充実しているかと思います。そんな私が一つだけ自信をもって伝えられることは、必ずしもこの内定者の声を踏襲する必要はないということです。試験勉強にしても、官庁訪問にしても、みなさんそれぞれに合ったやり方があると思いますので、この内定者の声を参考にしながらも、自分の軸を忘れずに試験に臨んでいただきたいと思います。

スケジュール

	2014年	2015年
1月		授業と発表が立て込み、あまり勉強できず。
2月		
3月		中旬ごろから、それまで続けてきたアルバイトを試験のために休ませてもらい、自分なりにラストスパートをかける。
4月	大学院入学	アルバイトを休み、試験に集中する。
5月	森林・自然環境区分での受験を決める。 (それまでも公務員、環境省を意識していたが、試験区分についてはあいまいだった)	一次試験が迫りくる中、初旬に予想外に研究の予定がたくさん入る。 総合職一次試験
6月	試験勉強に挫折する	都庁一次試験
7月	数的処理と判断推理などはクイズ感覚で一応勉強するも、専門科目等、思うように試験勉強に身が入らず。	総合職一次試験の合格発表と二次試験。
8月	〃	官庁訪問と内々定。 アルバイトに復帰する。
9月	〃	他の内々定者になかなか会えなくて少し不安になりながら、研究を進める。
10月	試験勉強に気持ちが戻り始める。 専門試験の勉強を本格的に始める。	内定式
11月	〃	修士研究（予定）
12月	〃	〃

D さんの場合

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】大学6年・男性・24歳

【併願先】なし

【参加した説明会・回数】霞が関省庁フォーラム、JOB トーク、一次合格者向け省庁説明会など6回

【試験区分】森林自然環境（院卒試験） 【専攻科目】獣医学（伝染病学）

【1次試験選択】①森林環境科学、②森林資源科学、③造園計画（自然公園）

【2次試験選択】森林科学に関する基礎知識（No.1 及び No.2）

* 志望動機 *

小学生のころから環境問題に関心があり、人間の活動により生態系が破壊され多くの野生動物が絶滅の危機に瀕していることに大きな憂いを感じていました。特に中二病を患っていた時期は「おれは人類の発展なんかより動物や地球の未来を救うんだ！」とイキっていて（今思えば短絡的で幼稚な考えですね）、将来は純粋に野生動物を守る職業に就きたいと考えるようになりました。

しかし大学で獣医学を学ぶ中で、ただ動物だけに目を向けるのではダメだと思い知らされました。地球という共同体に住んでいる以上、人と動物の双方の生活にバランス良く目を向けて両者が共生できる社会を目指していく必要があると感じました。

将来のことを漠然と考えているときにふらっと環境省のサマートライアルに参加してみ、そこで初めて環境省のレンジャーというものを知りました。人間社会と自然環境が接するときに生じる問題をハーモナイズしていくというレンジャーの仕事は、まさに私がやりたいことそのものでした。特に総合職のレンジャーは自然豊かな現場にも出られるし、本省で国を動かす大きな仕事もできるという大きな魅力を感じました。自分が現場で感じた問題点を実際に施策に反映したいと考え、環境省総合職自然系を選びました。

* 勉強方法 *

勉強を開始したのは1月からでしたが、日々の生活が忙しくあまり勉強時間が取れませんでした。実習や実験がないときや土日は朝から晩まで勉強していましたが、完全に勉強にシフトできたのは4月頃です。

勉強するときに役立ったのが Evernote です。ネットの資料、ワードにまとめたファイルや面接の想定質問集などはすべて Evernote に同期し、空いた時間はスマホやタブレットで資料を眺めていました。環境問題に関するニュースを見つけたときは即座に Evernote にクリップし、その解決策や自分の意見を添えました。

【1次：基礎能力試験】

勉強を始める前に1年分の過去問を解き、まずはどの分野でどれぐらい点数を稼ぐか計画を立てました。私の受けた院卒者試験は数的推理と判断推理のウエイトが大きかったため、ここの出来が総得点に大きく関わります。そのため2月頃から毎日数題ずつ問題を解いていき、問題の傾向に慣れるようにしました。国語と英語の読解問題はセンター試験程度の難易度で、それほど対策はいらないなと感じたので過去問を数年分解くだけにとどめました。知識問題は全く勉強をしませんでしたが、時事問題だけは本番1週間前から「速攻の時事」を読んで対策をしました。

直前まで夜型の生活をしていたので前日は全く眠れず本番は最悪なコンディションでしたが、レッドブルを飲みまくって何とか乗り切りました。私は文章読解と知識問題を先に終わらせて残り時間を数的判断推理に費やすという作戦をとりましたが、時間に追われる焦りから簡単な問題をいくつか取りこぼしてしまいました。時事問題は奇跡の全問正解だったので、速攻の時事だけでなんとかなると思います。

【1次：専門多肢選択式試験】

私は獣医学が専門なので、どの科目を選んでもゼロからのスタートでした。そのため内定者の声や先輩のアドバイスから、比較的点数の取れそうな科目を選択しました。

1月頃から過去問の解説作成に着手しました。過去問は先輩から譲り受けましたが、最新の1年分だけ人事院から取り寄せました(1ヶ月くらいかかります)。白書やネットを参考にして解説を作成するのと並行して図書館で専門書を読み、周辺知識を増やしていきました。通学やアルバイトに向かう電車の中ではiPadに保存した林業白書をひたすら読み、pdf編集アプリでごちゃごちゃ書き込みました(過去問を解き直すときにも使いましたが、とても便利でした)。本番1週間前までに6年分の過去問の解説を完成させ、そこから本番までは6年分の過去問の暗記と周辺知識の定着に努めました。

本番はそれなりに解けましたが、数題出題される時事ネタに苦戦しました。林野庁と環境省が直近の1,2年のうちに打ち出した施策や法改正などについて、もう少し勉強しておけばよかったかなと思います。ちなみに試験時間は超がつくほど余裕なので、選択肢をじっくり吟味できます。

【2次：専門記述式試験】

1次試験が終わるまで研究室の仕事を完全にストップしていたのですぐに勉強を始められず、合格発表頃から勉強を再開しました。1次試験で思ったより点が取れ、更に先輩から二次試験では差が付きにくいと聞いていたので、完全に油断しました。5年分くらいの過去問解答を作成し、ゆるゆるとインプットとアウトプットを繰り返すことをしていたらあっという間に本番を迎えました。

いざ問題を見てみると全くわからないものはなく、それなりに書けた気がしたのでうま

くいったと思い込んでいました。しかし点数開示をしてみると平均点にも届いておらず、勉強不足だったことを思い知らされました。論理的に問題があったというよりは単純に知識が足りず、深みのない文章になってしまったのではないかと思います。

【2次：人物試験】

私は民間企業を受けていなかったのも早めに面接対策をしようと思い、2次試験の勉強開始と同時に大学のキャリアセンターに行きました。人物試験までに計4回ほど模擬面接をしてもらい、足りない分は友人と面接練習をしました。昼食時に「君はこの省庁に入って何がしたいの?」といきなり質問をしたり、徹夜の実験後の極限状態のときに「志望動機を教えてください。なんで?それって民間でもできるよね?」と質問攻めにしたり、いついかなる状況でも的確に答えられるように練習を重ねました(笑)。ちなみに人事院の面接は提出した面接カードに沿った質問がくるので、想定質問&回答集をつくるのが有効です。

試験会場に着くと6人1グループに分けられ、グループの先頭の人から面接が行われました。私はグループの最後だったので、2時間ぐらい待たされました。暇つぶしに想定質問に対する回答をノートに書き殴り、あとはぼーっとしていました。

面接本番はほとんどが面接カード通りの質問でした。少し意地悪な質問もありましたが、所要時間15分くらいでかなりあっさり終わった気がします。人物試験が終わった後、政策課題討議試験が始まりました(討議試験→人物試験のパターンもあり)。

【2次：政策課題討議試験】

事前に複数回、院卒者試験を受ける友人と模擬討議を行いました。討議練習をする仲間がいなくても、レジュメの作成形式はあらかじめ決めておくとも本番も落ち着いて書くことができます。

本番は人物試験の6人グループで行われ、受験者に恵まれたこともあって活発な議論が行えました。相手を論破するような姿勢は減点されるので、対立する意見を持つ人に対しては互いの主張をすり合わせていくよう建設的な議論を心がけましょう。発表の際には制限時間が設けられており、タイムオーバーするとかなり減点される(という噂)ので、気を付けましょう。

【官庁訪問】

私は他省庁の説明会にたくさん参加した結果、環境省に行きたいという意思が固まったので他省庁は訪問しませんでした。しかし他省庁の訪問をすることで色々なお話を聞けたり、訪問者と仲良くなれ人脈を広げられたりといったメリットもあるようです。

官庁訪問の下準備として、人事院面接の際に作った想定質問&回答集を環境省仕様に変えました。特に志望動機、入省後にやりたいこと、日本における問題と解決策は入念に練り上げてうまく話せるように練習しました。

第1クールには3回の面接が行われました。どの面接も終始和やかな雰囲気、回答に困るような厳しい質問はありませんでした（人によっては多少あったらしい）。面接では課題解決能力や頭の良さというよりはレンジャーとしての資質（人柄、バイタリティー、熱意など）を見ているようで、背伸びせずにあるのままの自分をさらけ出すと良いと思います。受付時間が早かったこともあって午前中で終了しました。その日の午後や空いている日はちょこっとだけ志望動機等を練り直し、あとはひたすら甲子園を見ていました。

第2クールに訪問すると、その場で幹部面接を行うことが告げられました（一同驚愕）。昨年までは地方環境事務所での面接があったのですが、今年はそれが無くなっていました。いまさら面接カードを見直しても仕方がないと腹をくくり、周囲の訪問者たちと雑談をしてリラックスして待ちました。

最終面接は1対4の面接でした。面接の雰囲気は第1クールのとときさほど変わらず、リラックスして臨むことができました。笑いも起こるほど和やかで、最終面接だということを忘れてしまうほどでした。

アドバイス

○説明会やイベントに積極的に参加しよう！

私は業務理解を深めるために多くの説明会に参加しました。時には北海道の説明会に弾丸で行ったこともありましたが、とても貴重なお話を聞くことができました。また何回も説明会に参加していると、同じ省庁の志望者と仲良くなれ、色々な情報を共有できます。

○国立公園に行こう！

私の場合は二次試験が終わってから官庁訪問までの間に多くの国立公園に行きました。国立公園で働いているイメージができたり、何が問題になっているかを肌で感じる事ができたりと、とても有意義でした。時間が合えばアポを取ってレンジャーのお話を実際に聞くと良いと思います。

○1次試験は本気で挑もう！

1次試験で高得点が取れると最終合格に大きく近づきます。民間就活なども行う人は大変だと思いますが、精神的に余裕を持つためにも1次試験の対策にできる限り勉強時間を確保しましょう（ちなみに環境省自然系は採用の上で席次は重視しないらしいです）。

○官庁訪問は怖くない！

他省庁の官庁訪問体験を見ると、官庁訪問は訪問者をバッサバッサ切り捨てる恐ろしいイベントのような印象を受けますが、環境省自然系の官庁訪問は全くそういうことはありません。面接はだいたい和やかな雰囲気なので、とにかくリラックスして素の自分を見ることが重要です。私はリラックスするために白のポロシャツを着て官庁訪問に行きましたが、ちゃんと内定をもらうことができました。ざっと見渡した感じ私以外にポロシャツを着ている人はいませんでしたが、良い意味でアピールできたのかもしれない（笑）。

最後に

本格的に試験勉強を始めて官庁訪問が終わるまで7か月かかりました。これだけ長丁場だと心が折れそうになることもあり、そういうときには周囲の友達の支えが本当に力になります。大学と一緒に試験を受ける友達、説明会で知り合った友達などと協力して乗り切ってほしいです。頑張ってください！

スケジュール

	2014年	2015年	
1月		動物病院 実習	勉強開始
2月			自然保護官事務所訪問
3月			地方環境事務所訪問 総合職技術系説明会
4月			自然保護官事務所訪問
		4月中旬から勉強に完全シフト	
5月		24日：一次試験	
6月		JOBトーク×2 28日：二次試験	
7月		14日：人物、政策課題討議試験 公園めぐり（尾瀬・日光・上高地・妙高） 一次合格者向け省庁説明会	
8月	環境省サマートライアル	公園めぐり（裏磐梯） 仙台で部活の試合 公園めぐり（三陸） 5日～：官庁訪問 18日：内々定！	
9月	オーストラリアで野生動物保護実習	卒論準備	富士登山、瀬戸内旅行
10月	タイで大動物実習		内定式、部活引退
11月			卒論提出
12月	省庁フォーラム、JOBトーク 総合職受験を決意	卒論発表	

E さんの場合

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士課程2年・女性・24歳

【併願先】林学一般職・専門卸売

【参加した説明会・回数】1次試験後の合同説明会、霞ヶ関 open ゼミ等・複数回

【試験区分】森林自然環境（院卒試験）【専攻科目】木材物理学・木質材料学

【1次試験選択】⑩木材特性・木質構造⑪木材加工・材質改良⑫木材成分利用

【2次試験選択】木材等林産物に関する基礎

* 志望動機 *

修士1年の夏に林野庁インターンシップに参加したのをきっかけに、林野庁一筋で官庁訪問直前まで爆走していました。その中で、森林・自然環境区分で受験するに当たり、他の省庁も見て回ろうと思い、経産や総務、はたまた内閣府の説明会にまで足を運んでいました笑。環境省ももちろん見て回り、ただし周囲の意識の高さに呆然とする始末で、「生態学も造園もやっていない自分に、勝ち目はない!」と思って素通りしていました。ところが、林野庁の説明会に行くと、環境省と一緒に仕事をする機会も多く、出向も多いと伺い、「じゃあもっと環境省について調べよう!」と思い立ったのでした。そこで、レンジャーさんにお話を伺うため、地方環境事務所や自然保護官事務所を訪問しました。「自然を守るだけではなく、活用して地域のために活かすことも仕事であり、レンジャーは保護と利用の両輪のもと仕事をする」と伺い、衝撃を覚えました。なぜなら私の林野庁志望動機は、林業・林産業を活かして、地域を活性化させることだったのです。ここで、レンジャーの仕事と自分の考え方とに合致点を見出しました。官庁訪問の第一クールの面接で、上記のことを伝えると、「保護の時代は終わりつつある。これからは環境省として活用をすすめていきたいし、そういう考えの人に入ってほしい」と言っていただき、迷いに迷った末、「新しい取り組みに参画してみたい!」との思いから、環境省に決めました。

ちなみに、一般職は環境・林野ともに現場が多く、限られた地域にしか関われないため、日本全体で取り組む施策や制度づくりに関わりたいという思いから、総合職を志望しました。(私の場合、現場に出て本省に戻ってきてから、国立公園の活用を推進する仕組みづくりに取り組みたかったためです。)

* 勉強方法 *

おそらく、林産系の問題を選択する人は環境省志望者にはいらっしやらないと思いますが、他の省庁志望の方の参考になるかもしれないので、記しておきます。

ちなみに、私は高校物理も履修しておらず、文系科目の方が得意なので、他の林産受験者よりは、難易度が高く感じた、という書き方になっているかもしれません。その点ご了承くださいませ。

【1次：基礎能力試験】

直近5年分を2回ずつ、時間を計りながら行いました。時間配分や回答する順番などの練習になりました。問題集などで問題種別に対策もしてみたのですが、本番での点数はよくなかったため、他の方の勉強法を参考にしてください笑。

【1次：専門多肢選択式試験】

過去問を解いた後、本を読んで、知識を身につける、という順番で学習を行いました。基本的にはノートに一つずつ問題を貼り付けて、解説を書くといったことを行っていました。復習もしやすく、間違えた箇所も確認しやすいのでオススメです。木材科学講座をバイブルとして、何度も読み直していました。(実務必携は古いので、できるだけ新しい本や教科書を参考にするほうが良いです。)

試験2週間前までは、これとは違う独自の勉強法をしていたのですが、上記の学習法の方が圧倒的に効率的です。この経験から、他の人のオススメ勉強法を試す大切さも知りました。

【2次：専門記述式試験】

一次試験はこれで通過できたのですが、二次試験は3問中2問解答しなければならず、林産系では毎年一問くらい、「これ誰も自信をもって解けへんやろ」みたいな問題があるので油断は大敵です。林業白書を自主ゼミで読んだりしていたので、林学の過去問ならそんなに勉強せずともいけると思ったため、林学と林産の過去十年の傾向をエクセルにまとめ、分析しました。意外と林産の方が特定の分野が出題されやすい傾向がはっきりしており、一方林学は実務必携の一章が毎年順繰りに出題されるような傾向のため、林学を一次で勉強していない自分には不利と判断して林産を選びました。…まあ、勉強していても難問が多すぎて試験2週間前まで「林学に変えようか」と本気で悩んでいました。私の場合、林産の二次は生半可な努力で解けるものではなかったため、それ以外もサブで勉強する余裕なんてありませんでした。

1. 過去問のよく出題される分野の問題を解く

過去問分析の後、過去問のうち、頻出分野で自分が解けそうな問題から解いていきました。

頻出分野は、木質材料 (JAS や JIS の規格や試験方法、各材料の作り方、特性、接着剤)、乾燥 (水分)、国産材利用、パルプ化、セルロースの糖化などです。10年に一度しか出題さ

れてない分野などは難しいので、あまり勉強しませんでした。

2. 解けないため、調べ学習をして、まとめる。

そうはいつても、初見ではなかなか解けません。本を10冊以上はガンガン読んでノートに基礎から応用までまとめました。これをしないと本番で満足な分量（一問につきA3 2P）が書けません。その後は、それを正確に暗記していました。林産は他の選択問題と異なり、99パーセント知識（正確な暗記）が求められるので、その場で考えて回答を作るなんてできません。年によって難易度もバラバラなので十分すぎるほど備えました。

教科書に詳述されていないことも、過去問では聞かれることがあります。そういった部分は研究室の先生などに質問して学びました。（ちなみに、大学の先生に聞いても分からない問題もあったので、問題の適正が疑われることもありました笑。）

また、最近の傾向などは、森林・林業白書を参考にしました。木材に関する章は何度も読み直し、わからない用語や技術は調べて覚えました。

そんなこんなで、平成27年度は林産に変な問題が出なかったためか、合格もしていました、席次も上の方でした。ただし、問題が悪い年に当たると合格も危うくなるかも、ということは肝に銘じて、自分の実力と相談しておいてください。

基本的には、よく出るところを押さえておけば、大丈夫だと思います！

【2次：人物試験・政策課題討議試験&官庁訪問】

人物試験については、有志で集まって模擬試験をしていました。面接カードを記入して3枚コピーし、面接官役に三人、面接される役に一人、みたいなのをやりました。私の場合、事務系志願者ともやったので、刺激になってよかったです。事務系の人が面接官をされる時の質問は、なかなか歯ごたえがありました。面接のポイントなどはネットや市販の対策本にかなり書いてありますので、それを参考に面接官になったつもりで想定質問など考えると良いと思います。

政策討議については、同じ区分の人と同じグループになる確率が高いとのことで、同じ試験区分のメンバーで集まって練習していました。配布された資料が使用されるのですが、公表されていないため、自分たちで和文や英文などを貼り合わせたり、ネットでよさそうなサイトを見たりして、それを資料にしていました。全く練習しないよりは断然うまくなったと思いますが、当日のメンバーや議題にもよるので、必ずしもうまくいくというわけではありません笑。

官庁訪問についても、ES（省庁によって呼び名が異なる）が必要です。政策討議練習のメンバーで、官庁訪問や人物試験前に面接カードを見せ合い、質問や推敲を重ねていきま

した。民間就活でも ES を人に見せると見せないでは、出来がぜんぜん違いますし、面接も違ったものになっていきます。なので、恥ずかしがらずに、公務員志望でなくとも OK なので、お友達に面接カードを見てもらうことをオススメします。

第一クールの際に、自然系の採用担当の方と一緒に一気に四階分階段を上りました。まさか水面下で体力面までもテストされているのか!?!と焦り、必死で弾む息を抑えましたが、評価には関係していなかったようです笑。

アドバイス

林産系でも、あきらめなくていい。

お話を伺ったレンジャーさんの中には、土木出身の総合職の方もいらっしゃいました。所定の試験区分で合格さえしていれば、誰にでもチャンスはある職場です。おそらく、他の省庁もそうだと思います。

志望が変わったって、いいじゃない。

林野庁一筋だった私が言うのもなんですが、事務系では官庁訪問中に志望順位が変動するのはよくあることのようにです。技官だとどうしても入れる省庁が限られてしまうので、そんなバンバン変わることもないかとは思いますが、実際に職場に行き、職員さんの雰囲気を見て、様々な人とお話しさせて頂くと、説明会では見えない「空気」を感じます。友達作る時に、「この子波長が合いそう！」って思う人いるじゃないですか。職場もあんな感じで、波長が合うかどうかで志望を変えたっていいと思います。

レンジャーさんを、観察してみよう。

これ、めっちゃやってみました。レンジャーさんってどんな性格？どういう雰囲気？どこが魅力的？等等、脳内にスクラップを作りましょう。私が見つけた法則は、人の目をしっかり見て話す。話を途中で遮らず、落ち着いて聞く。常に落ち着いていて動じなさそう。でも、やる時にはめっちゃテキパキ仕事できそう。てな感じです。もっと共通点はありますが割愛します笑。私はこの共通点と思われる部分をそのレンジャーさんに会った日から実践していました。すなわち自分をレンジャーナイズするということです。この訓練をすると、民間や他省庁でも面接が通りやすくなりました。レンジャーっぽくなると、コミュニケーションが円滑になるのかもしれないね。

その他

林産だから、受からないだろう、との予測は裏切られました、わかったことが一つあります。本当に「**専門関係なく人物本位**」で採用していらっしゃるのだろうなあと。だって、私の専門、おそらく木道修理するとき位しか使えない気がしますもん笑（それですら使えない説も…）。だから、造園の研究室の人や、国立公園をフィールドに研究している人

がいても、引け目を感じないでください。おそらく官庁訪問の待合室にいるのはそういう人ばかりですが笑、そうでもない人も、生きてる生物扱ってない人でも可能性はあります。なので、変なことで悩まずに、素直に自己PRして、入りたいです！って言いましょう！それが一番の近道かもしれません。

民間就活は面接の練習にしておいたほうが絶対にいいです。ESの書き方も、面接カードを書く際にとっても参考になります。加えて、私の場合、林学が勉強できていない状態で一般職を受験したため、一般職に合格している保証もなく、民間を頑張らざるを得ませんでした。早く総合職試験に集中するためにも、春に内々定を頂いておくか、林学を勉強しておくことをオススメします。総合職で林学を選択した人は一般職の勉強がしやすかったようなので、そのあたりもうまく研究の都合と併せて、スケジュールリングや問題選択をした方がよいと思います。(林産で受験した人は、一般職を受けていない傾向にあるみたいです。)私自身、8月3日まで民間就活をして、林学も勉強していなかったので大変反省しています…。

皆さんには、たくさんの可能性があります。私自身、一年前に、まさか環境省に行くことになっているとは夢にも思っていませんでした。試験勉強は大変なときもありますが、すごく面白いときもあります(特に政策討議など)。楽しみながら、将来を思い描きながら、勉強してみてください！

長い文章を最後までお読みいただき、ありがとうございました！

スケジュール

	2014 年	2015 年
1 月		
2 月	卒論提出&発表	国際学会の準備 教養の問題を解き始める
3 月	初めての学会	3 月 1 日から本格的に民間就活 START 初めての国際学会 学会終了後就活&専門一次の勉強開始
4 月	大学院入学	修論のテーマを変更 民間就活&一次の勉強
5 月	実験	一次試験
6 月	インターン応募開始	林学の勉強&一般職一次 二次記述の勉強&試験
7 月	実験	人物・政策討議対策&試験 解放されて熊野へ
8 月	民間企業と林野庁のインターン に参加	官庁訪問・内々定
9 月	内定者の先輩を訪ねる	工場見学など
10 月	過去問入手 実験	東北の自然を満喫 内定 (ほっと一息)
11 月	実験 就活費用捻出のためバイト	実験
12 月	実験	実験

F さんの場合

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士課程 2 年・男性・24 歳（2015 年 4 月 1 日 現在）

【併願先】一般職（林学）、地方上級（自然保護）、民間企業（環境コンサルなど）

【参加した説明会・回数】合同説明会、サマートライアル、大学での説明会等・複数回

【試験区分】森林自然環境（院卒試験）【専攻科目】保全遺伝学

【1 次試験選択】①森林環境科学 ②森林資源科学 ⑧造園計画（自然公園）

【2 次試験選択】森林科学に関する基礎（No.1 及び No. 2）

* 志望動機 *

私はアウトドア好きな両親の影響を受けて子供の頃から登山などに親しんできました。その中で特に森林環境に興味を持ち、森林科学科に入学しました。大学の授業を通して絶滅危惧種の保全等に関心が移り、研究室では小笠原等における絶滅危惧植物の遺伝的多様性を評価する研究を行いました。しかし、研究だけでは直接的に保全に貢献することは難しいと感じるようになり、より主体的に保全に関わることができるレンジャーを志望しました。また最終的に環境省に決めたのは、幼少期にビジターセンターでレンジャーの方に話を伺い憧れを抱いたことも一因です。

私は一般職を第一志望で、総合職は運が良ければ程度に考えていたのですが、レンジャー職では一般職と総合職で職務内容に大差ないため先に採用して頂いた総合職に決めました。

* 勉強方法 *

私は外部委託した実験データの納品に半年かかることになったため、納品までの時間を利用して早い時期から試験対策を始めました。そのため森林科学専攻の割にはかなり勉強した方だと思います。時間があつたため研究室にあつた過去問（15 年分）を全てやりましたが、正直やり過ぎたと思います。時間がなければ試験の名称変更以降、余裕があれば 10 年分（人事院で請求可能）もすれば十分です。

【1 次：基礎能力試験】

研究室に参考書が一通りあつたので 12 月頃から毎日少しずつ勉強を始めました。特に苦手で解くのに時間がかかった数的推理や判断推理は慣れが必要なこともあり、それぞれ問題集を 3 周して解答速度を上げることを意識しました。他の知識分野については 1 問出るかどうかなので、やる意味はあまりないだろうと思いつつ問題集を 2 周して一通りは覚え

ました。本番は時間が足りないので、過去問を使い解く順番の検討と時間内に解く練習をしておくとういと思います。

【1次：専門多肢選択式試験】

1月頃から勉強を始めました。まずは過去問を林業実務必携や林業白書等を参考にしながら毎日半年分を解き、知らない単語等を余白に書き入れて模範解答を作りました。一般職の方が出題範囲の広さから難易度が高いので、一般職過去問を解いてから総合職に移りました。全問解き終わった後は、半年分ずつ問題を解き不確かな部分について周辺知識を見直すことを繰り返しました。2週間後、間違えた部分の問題のみを抽出して重点的に勉強し直しました。

また同時並行で林業白書と林業実務必携をそれぞれ毎日約1章ずつ読み内容を覚えるように努めました。特に林業白書のグラフなどはほぼ同じものが出ることもあるので目を通して損はありません。環境白書については過去問を解く過程で調べた程度で、あまり読み込みませんでした。

【2次：専門記述式試験】

一般職の一次試験が終わるまではそちらを優先したため、実質2週間ぐらいしか勉強していません。毎日一年分ずつ過去問を解き解答を考えました。試験時間が3時間と長いので、長時間字を書き続けることに慣れておかないときついと思います。私は論理性よりも知識の羅列のみ(A4裏表)で通過したので、解答用紙を埋めることが重要かもしれません。

【2次：人物試験】

私は民間企業を幅広く受験(食品、種苗、環境コンサル、アウトドア等)したため面接慣れしていた方だと思います。また大学のキャリアサポートセンターで公務員試験対策の模擬面接を一度受けました。面接カードをもとにした質問がほとんどであることから、自己分析とカードに書く内容の精査、想定問答集の作成に力を入れました。特に面接カードは友人、先輩などできるだけ多くの方に添削してもらい、話したいことが伝わるように注意しました。個人的にこの区分での志望動機は、公務員になりたい理由というよりは、どの官庁でどんな仕事をしたいのかを書く方が話に具体性がでてよいと思います。

本番は森林自然環境区分では人事院、環境省、林野庁の方が面接官をされていました。民間の面接などと比べると突っ込んだ質問も少なく、時折笑いが起きるような和やかな雰囲気でした。この時の面接官の方に官庁訪問でお会いすることもあるので話す内容は筋を通しておきましょう。

【2次：政策課題討議試験】

民間企業の選考過程で何度かGDを受けた他、一次試験で知り合った受験者などを交え

て、練習会を何度か行いました。また総合職受験者を支援する団体で他区分の方々と練習し、レジュメ作成等について学べたのも大きかったように思います。ゼミ等で議論に慣れていても形式が異なるため練習しておいて損はありません。また新聞を読むなど普段から時事問題に気を配っておくと民間企業の就活でも役立ちます。

レジュメでは（自分の立場、各案のメリットとデメリット、立場を選んだ理由、デメリットへの反論）について書きました。渡された資料は議論の際に回収されたため、必要な情報は抜粋してレジュメに載せておきましょう。GD後の二分間の発表では議論を通じて自分の意見、考えがどう変化したかと感想を述べたように思います。

【官庁訪問】

面接試験後から対策を始めました。人事院面接での質問をもとに自己分析のやり直しと身上書(面接カード)の精査をしていました。また同じ省庁の志望者同士で政策などの勉強会や身上書の見せ合いを何度か行いました。結果としてこの区分では政策等についての知識は特に必要ではないようです。また身上書の形式は毎年ほぼ同じなので早目にチェックしておくといいです。人事院面接と同様に受験者同士や先輩などに何度かチェックしてもらいましょう。環境省のものは分量が少ないですが、裏面が空欄となっています。私は手書きで表面のみでしたが、裏面まで書いている方やパソコン入力の方もおられました。

私の訪問順は以下の通りです

第1ターム 1日目：環境省、 2日目：林野庁、 3日目：某県（地方公務員）

第2ターム 2日目：林野庁、環境省

初日は先着順で7時15分頃に着き1番目の面接グループとなりました。2,3日目に訪問した方でも合格者しているので面接順は関係ないようです。また官庁の採用担当者同士でも情報交換があるようなので、対抗するために（笑）受験者同士（特に同日別省庁を訪問した方）で情報を交換していたのが役立ちました。面接して頂いた方の名前は後々聞かれることが多いのでメモしておきましょう。因みに、私のように幹部面接で鞆を忘れて退出しかける程度ミスでは合否に関係ありませんので、細かいことはあまり気にしすぎないようにしましょう。また親戚宅に泊めてもらいましたが、片道一時間かかり往復だけで疲れたので無理せずに近場に確保すべきだと思います。

アドバイス

転職等の選択肢があるとはいえ、就活は人生の大きな選択の一つです。やり残して後悔するぐらいなら、何でも利用して食欲に挑んでください。また同期の受験者はライバルですが、官庁訪問や人事院試験時に情報交換ができたりするので仲良くしておきましょう。慣れない場所では顔見知りがいるだけでも心強いものです。試験の対策も大変ですし、官

庁訪問では連日面接が続き精神的に疲れがたまりませんが、気持ちの切り替えを意識して頑張ってください。

その他

私は面接に苦手意識を持っていたことや自分の見聞を広めるために多くの民間企業を受験しました。大変でしたが、各業界や民間企業と行政の違いなどについても考えることができ有意義だったように思います。一方で試験勉強だけでなく、ESや業界研究などにも多くの時間を取られ研究などに回す時間がなくなり9月以降に苦しんでいます。

早い時期からレンジャーを希望するのであれば、実際にお会いして話を伺い、実際の仕事内容について理解しておくべきだと思います。特に地方では自然系の説明会が開催されることが少なく情報を集めにくいのでその意味でも積極的に活動しましょう。今年の合格者の大半はレンジャーの方のお話を聞いているようですし…。同様に国立公園にも一度は足を運んでおきましょう。因みに私はいつの間にか過半数を越えていました(笑)。

最後になりましたが、将来の展望としては研究で御世話になった小笠原などの調査地にレンジャーとして何らかの形で貢献していきたいと思っています。

スケジュール

	2014年	2015年
1月	卒論に追われる	勉強を本格的に開始
2月		民間就活一部開始
3月		民間就活本格開始
4月	大学院入学 フィールド調査と実験に追われる	一社内定 就活継続&試験勉強
5月		総合職一次試験に向けて追いこみ
6月		隔週で公務員試験
7月		GD 練習や官庁訪問対策
8月	環境省のサマートライアルに参加	官庁訪問
9月	フィールド調査漬	データ解析漬
10月	実験漬	最終面接（内定式）、データ解析漬
11月		修論にむけデータ解析漬
12月	数的推理を中心に勉強開始	

Gさんの場合

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】大学6年・女性・24歳（H27.4）

【併願先】民間企業

【参加した説明会・回数】2週間のインターン（H24.9）、サマートライアル（H26.8）、霞ヶ関 open ゼミ（H27.3）等

【試験区分】森林自然環境（院卒試験）【専攻科目】獣医学

【1次試験選択】①森林環境科学、⑧自然公園、⑨都市公園

【2次試験選択】森林科学に関する基礎知識（No.1 及び No.3）

志望動機

・幼少期に希少な野生動物種を救う仕事がしたいと思い立ち、その初志のまま（？）獣医学部に進学しました。学生時代に様々な実習を経験する上で、動物の専門家1人の力では希少種の野生復帰は叶わないこと、深刻化する鳥獣害の存在、希少種保全活動を介して住民同士の協働が成り立つ地域もあること等、様々な事柄を学びました。

・行政の道を志そうと思ったのは、大学3年次に環境省にて2週間のインターンを経験したことがきっかけでした。ちょうど生物多様性国家戦略の最終調整段階の時期だったので、インターン中に広報に関する有識者会議に参加させていただきました。自然保護の最先端にいる自然活動家でもなく、科学的知見を蓄積し提示する研究者でもなく、様々な立場の方々から意見を頂戴し最良の有り方を模索する「調整役」である行政のお仕事、そして、政策の実現までを見届けることのできるレンジャーのお仕事を知り、惹かれ始めた瞬間でした。

・以上の経験を踏まえ、国家公務員として、自然環境保全と種々の人間活動の調和が成り立つ社会の形成と発展に貢献していきたいと思うようになりました。

勉強方法

【1次：基礎能力試験】

◎使用した参考書：クイックマスター（数的推理・資料解釈）、速攻の時事

◎勉強時間・内容：試験の約1か月前から数的処理と時事の勉強を始めました。あとは試験の2週間前から、過去問3年分（新課程のH24~H26）を繰り返し解きました。

◎おすすめ勉強法：本番までに1度は、時間制限付きで過去問を解いてみて、問題を解く順番を決めておくことをおすすめします。

【1次：専門多肢選択式試験】

◎使用した参考書：森林・林業白書、森林・林業実務必携、高校の生物・地学の教科書

◎勉強時間・内容：年が明けてから勉強を始めたので5ヶ月弱ぐらいは勉強したかなと思います。過去問は7年分（H20~H26）を入手しました。それを1問ずつノートに貼って解く→わからないところは白書かネットで調べる、を繰り返していました。はじめは1問も解けずに、挫けそうでしたが、3年分ぐらい解いたところで、さっきもやったやん！という問題が出てきます。

また最後に、高校の生物・地学の教科書を用いて、基礎問題の分野を詰めました。ですが本番の問題は例年になく（？）難しすぎてサッパリでした…

◎おすすめ勉強法：例年法律の内容が多いイメージだった自然公園（科目8）や都市公園（科目9）で、27年度は最近のネタが出て、試験中冷や汗をかいたことを今でも覚えています。過去問を解く片手間に、白書等にも目を通し、最新時事まで知っておくのも大切だと思いました。

【2次：専門記述式試験】

◎使用した参考書：1次試験と同じもの

◎勉強時間・内容：1次試験後から勉強を始めました。1次試験の時と同じく、過去問7年分を並べ、全問題に自分なりの解答をつけ、出題傾向を掴んでから、出やすいテーマを重点的に対策（暗記）しました。

◎おすすめ勉強法：私は森林・林業の専攻の人間ではないためか、記述問題を解答する上で重要な部分である、「森林・林業現場の何が問題なのか」を体系的に掴むことに最も苦労した記憶があります。1次の勉強の時から論理的に考えつつ白書を読み込んでおくこと、普段から林業系の新聞記事等に目を通しておくこともおすすめです。

【2次：政策課題討議試験】

◎使用した参考書：無し

◎勉強時間・内容：学部の公務員志望の友人と、資料配布から最後の個人発表まできっちり時間を測って、本番さながらの練習を5回も（！）しました。本番を終えて振り返ってみると、ディスカッション練習は百歩譲ってできなかったとしても、資料解釈→レジュメ作成の練習だけはしておいて良かった！と心から思いました。流れを知らずに25分間でレジュメを作成するには、やはり厳しいものがあります…

本番のディスカッションは、私がそれまで経験した企業GDの雰囲気とは全く異なり、終始和やかなものでした！討議開始直後、役割分担の波に乗れず、議論途中で勝手にタイムキーパーを始めてしまったり、個人発表で持ち時間を余らせてしまったりと、全体を通して自分でもわかるミスがいくつかありましたが、こんな私でも評価はそこまで悪くはありませんでした。

ちなみに本番のテーマは「買い物弱者（地方在住のお年寄りとか）は行政が助けるべきか？民間が助けるべきか？」というようなものでした。

【2次：人物試験】

◎使用した参考書：無し

◎勉強時間・内容：2次試験の勉強の片手間に、面接カードの内容を考え始めました。（試験直前は大学の就職支援課が込み合うと聞いていたために、早めに対策を始めました。）就職支援課の職員さんに相談したり、友人と面接練習をしたりしつつ、2~3週間かけて何とかカードを完成させたのですが、本番の面接では緊張のあまりカードの内容を忘れ、その場で思いついたことを答えていたような気がします。かと言って、特に聞き返されたり、怪訝な顔をされたりすることもなく、気が付いたら次の質問に移っていました。こんな私でも、評価はそこまで悪くはありませんでした。一番答えにくかった質問は「〇〇の体験を通して学んだことを他に活かしたか？」です。これが噂に聞いたコンピテンシー面接だ…と思いました。

【英語試験】

私は TOEIC の点数を申告しました。官庁訪問で言うと笑ってもらえるぐらいの酷い点数だったのですが、全く加点が無いよりは、ある方が安心できると思います（笑）早めの受験をお勧めします。今年度頭の TOEIC（5月、6月）は何故か、総合職試験の日程と全部被っていました。

【官庁訪問】

◎事前準備：2次試験の出来に自信を持てなかったため、合格発表日まで官庁訪問の対策を始める気になれず、研究や民間就活を進めたり、気分転換に尾瀬等に遊びに行ったりしていました。合格発表を経て、ゆっくりと面接カードの作成を行い、一方で新聞記事・白書等を読み込み、逆質問をいくつか挙げておきました。私は「環境省→文科省→林野庁」の順で3つの省庁を訪問しましたが、残りの2省庁は訪問前日からの準備で臨ませていただきました…m()m

◎官庁訪問本番：第1クールでは1日目の7AMに訪問したら、余裕の1番乗りでした。ほとんど間髪入れずに3組の職員さんに面接をしていただき、11AMには終了しました（笑）第2クールでは、指定された2日目の午後に訪問しました。

官庁訪問前は、面接で「仕事で〇〇の担当になったらどう解決する？」「〇〇という政策について意見せよ」等難しいことを質問されたらどうしようとびびっていましたが、そんなことはあまり無く、ただただ面接カードの内容について+αを中心に聞かれました。私という人間そのもの見て、レンジャーとしてやっていけるのかを判断して下さったのだなと感じました。だからこそ、変に気負わずもっと自信を持って望めていたら良かったなと

反省しています。

また、待合室は他の受験者と気軽に話ができる空間になっていました。全国津々浦々から自然の好きな方々が集まっているため、話していて非常に楽しく、勉強になりました。

アドバイス

・試験に関しては、終始1人きりで頑張ろうとせず、できるだけ先輩、友人等の力を頼りに乗り越えていくのが良いと思います。そりゃ最終的には1人で踏ん張らないといけません、そもそもこの試験の性質上、これまでに合格した人のやり方を参考にすれば合格に近づく試験だと思うので、やはり他人の力を借りるのは重要なことだと思います。

私も先輩から勉強道具一式をもらい、友人とあーだこーだ言いつつ2次試験の解答を作り合い、大学の就職支援課の職員さんに人生相談を重ね、他学部・他大学の人も交えて政策討議の練習を行うことで、なんとか合格までたどり着きました。周りに受験者が居ない場合には、ひとまずOB/OG訪問する、予備校に顔を出す等の手段もありだと聞いています。

その他

ここまで凄く偉そうに内定者の声を書いてきましたが、実は私、一度官庁訪問で落ちました（追加合格者です）。落ちたことをきっかけに、人生で初めて、自分に不足しているものは何なのかを深く真剣に考えました。初志から官庁訪問に至るまで、足りなかったものは引く程にたくさんありました。そして、そもそも自分は何を成し遂げたかったのかについて、約1か月間悩み倒しました。

もちろん、就活は相性だ！という理論もあるので、もし私と同様の状況に陥ることがあっても、割り切って他の選択肢にお世話になれば良いだけの話で、私みたいにもがく必要も無いと思っています。しかし、総合職試験の前日に環境省からいただいたメルマガに書いてあった言葉「念ずれば花開く」じゃないのですが、私はこの経験を通して、一度は失敗しても、ひとえに思い続けさえすれば、何とかなるのだなと感じました。

皆さんも、今後就職活動を行っていく上で多少は壁にぶつかることがあるかも知れません。松岡〇造みたい、決して諦めるな！！なんてことは言えませんが、どうか、「前向きに考え続けること」だけは辞めないでいただきたいと思います。

何が言いたいかって、面接で一番大切なのは、恐らく知識でも、機転でも、はたまた国立公園に行った回数でもなく（笑）、本当にそれがやりたい！という気持ちなのだ、と私的には思うのです。それさえ懸命に伝えることができたなら、たとえ残念な結果になったとしても、後悔が少なく済むのではないかと考えます。私のようになる前に、あらゆる手段を使って、徹底した自己分析と官庁訪問対策を行うことをおすすめいたします m()m 拙い文章でしたが、最後まで読んでいただきありがとうございます。皆様の就職活動が上手くいくことを心よりお祈り申し上げます。私も社会人1年目、頑張ります。

スケジュール

	やったこと
H26.12月	<ul style="list-style-type: none"> ・過去問と参考書類を手に入れる。勉強計画を立てる
H27.1月	<ul style="list-style-type: none"> ・正月休み後から専門試験の勉強を始める ・慌てて TOEIC を受ける
2月	<ul style="list-style-type: none"> (・学会発表、動物病院実習完結) ・地方環境事務所を訪問する
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会で初めて他の省庁も見てみる ・国立公園内の自然保護官事務所を訪問する
4月	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・GW 後から研究をストップし、大学内の図書館にこもる。教養試験の勉強も始める ・【24日】1次試験
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・【28日】2次試験
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・【14日】人物・討議試験 (・ちょいちょい民間就活にも出掛ける(～8月頭まで))
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・官庁訪問。最終面接が終わった瞬間泣く(笑) ・内々定やっぱ来ず。わかっていた結果だが多分人生で1番落ち込む
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・やさぐれて対馬旅。レンジャーにはなれなくても野生動物の道にはいようと決意する ・将来のキャリアプランを本気の本気で考える ・まさかの内々定
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・【1日】最終面接と内定式

Hさんの場合

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士課程2年・女性・23歳

【併願先】一般職（林学）、東京都庁（造園）、民間（環境コンサル）

【参加した説明会・回数】大学での業務説明会、環境省JOBトーク、政策シミュレーション、サマートライアル、1次試験後の合同説明会、etc.

【試験区分】森林自然環境（院卒試験） 【専攻科目】造園学、景観生態学

【1次試験選択】①造園学原論・造園材料、②造園計画(自然公園)、③造園計画(都市公園)

【2次試験選択】自然環境・公園緑地に関する基礎（No. 7 及び No. 9）

志望動機

旅行や研究を通して自然の美しさや文化の豊かさに感動し、それらを将来にわたって守りたいと思い環境省を志望しました。

私は山岳部の父とワンゲル部の母というアウトドア一家に生まれ育ち、幼いころから山登りやキャンプなどに連れて行ってもらっていました。そして小学生のときに白馬山に登り、山の上からの壮大な眺め、見たことのない植物、満天の星空などに感動し、いつの間にかそうした大自然を守りたいと思うようになっていました。これが1つ目の人生のターニングポイントでした。

そしてさらに、学校での環境学習や温暖化のニュース等によって環境問題にも関心を持つようになりました。しかし「環境を守りたい」という夢はあるものの、どんな仕事があるかわからず、進路に悩んでいた高校生の時、たまたま環境省のレンジャーという仕事の存在を知り「これだ!」と一目惚れしました。これが2つ目のターニングポイントです。

レンジャーになるには森林の勉強が必要だと思い、森林科学を学べる大学に進んで国内外の森林の現状や環境問題について学びました。また、実習や研究を通して里山での暮らしや住民の思いに触れ、地域に根付いた文化の豊かさと自然との繋がりを体感する中で、壮大な大自然だけでなくこうした文化や人々と関わりあってきた自然というものも後世に残していきたいと思うようになりました。

またフィールド調査の際に環境省職員の方々にお世話になったのですが、住民や有識者などの賛成反対様々な意見を調整しながら地域の未来を考えている姿を目の当たりにし、はたしてこんな大変で難しい仕事が自分に務まるのかと不安になる一方で、ますます環境省への憧れが強まっていきました。他の仕事も考えましたが、やはりこんなに幅広い視野で「環境」を軸に働ける仕事はないと思い、環境省に挑戦することに決めました。

勉強方法

【1次：基礎能力試験】

民間就活の対策も兼ねて、修士1回生の春休みから、市販の問題集で数的処理や判断推理の解き方のパターンを勉強し始めました。その後、公務員志望の友達と一緒に週1くらいで過去問の勉強会をしました。大学で過去問と解答は借りられたのですが解説は無く、自分だけでは解けない問題があったからです。総合職と一般職の過去問数年分を、本番通り時間を計って解いた後みんなで解き方を教えあいました。自分だけだとつい後回しにしてしまいがちなので、勉強会によって定期的に過去問を解くモチベーションを維持できました。総合職の問題はWebテストや他の公務員試験と比べても難しく、最初は全然解けませんでした。しだいにクイズやパズルのように楽しんで解けるようになりました。

知識分野（常識、時事など）については、範囲が広く時間も足りなかったため、新聞をたまに読むくらいで特に対策はしませんでした。公務員模試も受けようと思っていたのですが結局一度も受けませんでした。

【1次：専門多肢選択式試験】

農業や理工系の公務員試験参考書は書店にもあるのですが、おそらく森林自然環境区分の参考書はありません。そこで初めは大学の授業資料や院試の問題をもとに勉強していましたが、いざ過去問を解いてみるとほとんどわかりませんでした。それでも数年分を解いてみると、同じ事項について何回も出題されていたり似たような問題があったりしていることがわかったので、途中から過去問ベースの勉強に変更しました。まず過去問をそのまま解いて採点し、その後すべての問題について選択肢中の間違い探しや分からない語句の意味調べなどを行い、問題の空いている所にどんどんメモしていきました。そうすることで、本番直前にはそのメモした過去問を見直すだけで、間違いやすいポイントやよく出る法律の内容などがわかるようになりました。また私は法律関係が弱かったので、条文を印刷して読み込むとともに、ネット等で各法律のポイントや分かりやすい説明文や表を調べてまとめました。

【2次：専門記述式試験】

併願先の試験勉強に追われて時間が無かったので、筆記試験対策というものは特に行いませんでした。大学で専門試験の内容を含む授業を幅広く履修し、割とちゃんと出席していたので、なんとかなるかなという思いもありました。本番では東京オリンピックについて出題されたのですが、ちょうど都庁受験のために事前に調べたり考えたりしていたのが役立ちました。どの分野からどのような問題が出題されるかわからないので、日頃からなるべく多くの分野についての知識をつけ、それに関して現状や問題点、解決策等を文章で説明できるようにしておくことが大事だと思います。

【2次：政策課題討議試験】

グループディスカッションの経験が皆無だったので、公務員志望の知り合いに呼び掛けて数回集まって練習しました。政策討議の過去問や参考書は無かったので、自分達でそれっぽいテーマを考え、それに合った資料をネットで探して練習問題を作りました。実際に本番通りの形式で通してみると、想像より最初のレジュメ作成に時間がかかることや、他の人の意見を聞いた上で自分の考えを説明する難しさがわかったので、事前に本番の形式を一度は体験しておくとういと思います。また他人のレジュメの書き方や討議の進め方を参考にしたり、試験に向けて情報交換したりもできたので、とても役立ちました。

本番では、知らない人ばかりでしたが練習のおかげで緊張せずに進められたと思います。最初に大部屋でレジュメを作成した後、グループごとに別室に移動して討議を行いました。その間グループの他の人とは話さないで、互いのバックグラウンド等はわかりません。テーマは「米飯給食を週5日義務化するべきか否か」というものでした。問題を見たとき始めは「別に義務化しなくてもいい」と思ったのですが、レジュメ作成の中でメリット/デメリットを考えていくうちに「義務化賛成」の方が話しやすいと感じ、賛成派としてレジュメを作成しました。グループでは賛成2人に反対4人でしたが、どちらが正しいというのではなく、お互いの考えを認めつつ妥協点を見つけるという感じでした。相手の話をよく聞いて同意できる点を探すこと、喧嘩腰に否定したり無理に説得したりしないこと、論点をずらさないこと、相手に伝わる声の大きさやスピードで話すこと等に気を付けました。また最後に1人ずつ自分の最終的な意見や感想を述べる時間があるのですが、最初と意見を変える人もいました。

ちなみに私がグループで最初に話す順番だったのですが、「米飯（べいはん）」の読み方に自信がなかったため「コメの給食」などと誤魔化したところ、他の人も分からなかったようで最後まで全員「コメの給食」とか「ごはんの給食」と呼んでいました。

【2次：人物試験】

専門試験後から人事院面接と官庁訪問の面接カードを書き始め、公務員志望の友達と見せ合ってはお互いの改善点や想定質問を考えました。文章のおかしな所などは自分ではわかりにくいので、家族でも誰でもいいので読んでもらうことをお勧めします。公務員試験ジャーナルや予備校の資料などに面接カードの例や書き方のコツなどが載っているので、事務系と自然系では違う部分もあるものの参考にはなると思います。面接練習は大学のキャリアサポートセンター等でしてもらえるようでしたが、私は一度も利用しませんでした。人事院面接の前に民間の面接を少しですが受けたので、研究内容や学生時代の経験について説明する練習にはなったと思います。

本番は政策討議のすぐ後に行われたのですが、政策討議のおかげで話すことに慣れたからか緊張がほぐれ、落ち着いて受けることが出来ました。面接官は3名で15分程度、面接カードに沿って質問されました。

【官庁訪問】

官庁訪問は体力勝負だと思ったので、夜行バスではなく前日の新幹線で東京に向かいました。1日目の朝に環境省を訪問しましたが、私が7:30過ぎに会場に着いた時には既に廊下に列ができていたので驚きました。時間になると事務系・理工系・自然系に分かれて受付が始まり、順番に控室のテーブルの席につきます。その時に1番目のテーブルの人は午前、2番目のテーブルの人は午後、その後の人は夕方から面接が行われました。私は2番目のテーブルになり午前中の待ち時間は自由だったので、面接カードを見直したり、同じテーブルの人と話したり、みんなで食堂で昼食をとったり、環境省の方が用意して下さったお菓子を頂いたりパンフレットを読んだりして過ごしました。その間に1番のテーブルの人たちは面接を終えて帰っていきました。

2つ目のテーブルの時間になると、一人ずつ順番に呼ばれて一人で面接会場に移動しました。面接は1回20分程度で、ブースに分かれた大部屋や個室、職場の片隅などで行われます。基本的に面接カードに沿って質問されましたが、「～についてどう思うか?」「～するにはどうすればよいか?」といった想定外の質問もあり、臨機応変にその場で自分なりに考えて答えました。レンジャーとしての考え方や対処の仕方を見られていたと感じます。変なことを話してしまわないか緊張しましたが、環境省に対する熱意を伝えようという気持ちで挑みました。

他の日には林野庁と国交省を訪問しました。それぞれ面接カードや訪問手順などが全く異なるので注意が必要です。環境省が第一志望であることは正直に伝えました。環境省との違いや環境省との共同事業について説明していただいたり、環境省では聞けなかった女性職員や海外業務の話などを詳しく聞けたりと、勉強になったと思います。

官庁訪問中の宿についてですが、私は新宿にある2~3000円くらいのカプセルホテルを利用しました。女性専用フロアがあり、震が関東までアクセスもよく宿泊に必要なものも揃っていて便利です。試験の合格発表前から早めに予約しておき、落ちていたらキャンセルするつもりでした。またクール間の土日休みには、大学で用事があったので一旦帰ってゆっくりしました。官庁訪問には交通費+宿泊費+食費で計6万円くらいかかったと思います。

アドバイス

環境省では、「どれほど頭が良いか」「いかに学生時代にすごい経験をしてきたか」といったことよりも、「本当に環境省に入りたいのか」「レンジャーに向いているか」といったことが重視されている気がします。試験勉強だけでなく、「なぜ環境省なのか?」ということ常々を常に自分の中でしっかり考えることが大事だと思います。公務員がよければ地方や他省庁も考えられますし、「環境」という軸であればNPOや研究職、環境コンサルなどの道も考えられます。それぞれの相違点を知るためにも、環境省の説明会に参加したり国立公園に行ったりして職員の方から実際の現場の話聞いておくことをお勧めします。またス

ケジュール的に厳しくなるかもしれませんが、民間就活を行ってみるのもいいと思いました。合同説明会でいろんな企業を見るだけでも民間と公務員との違いは感じられるでしょうし、他の仕事も十分に検討した上でそれでも環境省がよいと決めたのであれば志望理由の説得力が増すと思います。

あとは、体調や生活リズムを整えておくことも大事だと思います。学業や研究で忙しいとは思いますが、試験前はしっかり栄養と睡眠をとって手洗いうがいをして風邪など引かないように気を付けてください。試験は朝早くからなので、寝坊で遅刻とか頭が働かないとかいうことがないように早起きの習慣をつけておきましょう。

その他

私はレンジャーになりたいと思って今まで進んできましたが、その詳細を知り自分の将来を真剣に考えるにつれ、途中で何度も「自分はレンジャーに合わないのではないか」「国家公務員なんかには自分になれるのか」などと悩むようになりました。しかし、もしこの夢に挑戦せず別の道に進んだら一生後悔するだろうという気がして、どうせ働いてみないとわからないのだからやれるだけやってみようと思い直して決断し、落ちる覚悟で挑んだ結果、自分でも驚いたことに内定を頂くことが出来ました。皆さんも進路について悩むことがあるかと思いますが、自分が本当にやりたいことを大切に、それがレンジャーであると思うのであれば諦めずに挑戦してほしいです！応援しています。

スケジュール

	2014	2015
1月	卒論に追われる。	判断推理・数的処理の問題集を解く。
2月		友達と公務員勉強会スタート、過去問を解き始めたが撃沈。
3月	研究発表、旅行	スキー、旅行、民間も見てみるなどして勉強進まず…
4月	公務員試験受験申請するも受験せず。	図書館で過去問を解いて勉強。 研究室 OB 等から環境省、林野庁、都庁等の話を聞く。
5月	大学院の授業や実習、学生団体の仕事などに追われる。 大学での環境省の説明会に参加。	民間試験→面接→内々定を貰って少し気が緩む。 所属する学生団体のイベントがあり仕事に追われる。 24日：総合職1次試験
6月		試験ラッシュに勉強が間に合わず焦る。 7日：都庁1次試験 14日：一般職1次試験 28日：総合職2次試験
7月		友達と励ましあいながらGD練習、面接カード準備。 15日：総合職面接 27日：都庁面接 31日：一般職面接
8月	環境省サマトラ参加	4日～：官庁訪問 → 18日：内々定！
9月	旅行	研究
10月	イギリスで調査、	1日：最終面接 → 内定式！
11月	国立公園等を巡る。	イギリスで調査
12月	学生団体の仕事	修論がんばります

内定者ってどんな人たち？

1. 環境省のイメージ

- ・雰囲気がやわらかく人当たりの良い人が多い
- ・長期的なスパンで物事に対処し、自然保護を第一にできる数少ない職場
- ・省の中だけでなく地元の方とのつながりを含めて、人と人との関係を大切にしている
- ・コミュニケーション能力が高い
- ・捌けた感じ
- ・調整業務が多い
- ・風通しが良く、自由
- ・若いうちから責任ある仕事を任される、ベンチャー的
- ・ラフな格好で仕事している、おしゃれ
- ・気さくだが仕事のことになると熱い人が多い
- ・キャラが多様
- ・全体的に穏やかな雰囲気を持っている
- ・組織が小さい分一人の役割が大きい
- ・現場が大好き！現場では皆でアイデアを出し合いながら仕事をするイメージ
- ・1つの自然環境行政でも仕事が多岐にわたる。責任も重そう
- ・職員の方の正義感が強そう

2. 同期の第一印象

- ・自分の考えをはっきりと表現する人が多い
- ・新しいことに積極的に挑戦していくタイプ
- ・いわゆる「自然愛好家」というより自然も、人相手も好き
- ・自分の視点やペースを強く持っていそう
- ・事務系・理工系・自然系でそれぞれ雰囲気が違う
- ・話しやすい人が多かった
- ・ぱっと見まじめそうだが色々掘り返すと面白い
- ・純朴さが溢れている
- ・バックグラウンドが超多様
- ・同期とルームシェアしたら楽しそう
- ・女性と院生が多い
- ・落ち着いた印象の人が多い

3. 趣味

- アクティブ系・・・旅行、山登り、沢登り、スポーツ・運動（スキー、バドミントン、フットサル、ウエイトトレーニング、ダンスなど）、山仕事
- 文化系・・・・・・読書、外国語、映画鑑賞、書道
- 巡り系・・・・・・庭園、酒蔵、動物園、水族館、美術館
- ほのぼの系・・・・空を眺めること、昼食の約束を取り付けること、道草、雑貨収集、はなうた
- その他・・・・・・変わったもの（雑草や昆虫）を食べること

4. 失敗談

- ・内定者の声を読まなかったこと。
- ・公務員試験 1 次で人事院の方からもらう、あの緑の紙をなくした。提出書類が含まれていたのが純粋にヤバいと思った。
→焦らずお近くの人事院事務所に電話。アポを取って、もう 1 枚もらいに行くことになります。
- ・過去問に取り掛かるのが遅くて 1 次の専門が散々だった（結果出るまでの精神衛生上よくなかった）。
- ・2 次の人物試験と官庁訪問のときに時計を忘れた（問題はなかったが精神衛生上よくなかった）。
- ・面接対策講座等、大学で開かれる公務員対策講座をあまり活用できなかったこと。
- ・官庁訪問前日に自宅の鍵をなくしキーレスキューを要請した。2 万円失った。
- ・官庁訪問で面接会場に移動中、「やたら今日は靴が滑るな」と思って靴底を見ると、右足だけ靴底がきれいに取れていました…。いったいいつどこで取れたのかもわからず焦りましたが、とりあえず何も見なかったことにして、その後の面接もすべて何食わぬ顔をして靴底が無いまま受けました。就活用でもちゃんとしたものを買うべきだったと反省しました。
- ・幹部面接で、「林野庁で第一志望と言ってしまったので、（第一志望と）言えません」と言ってしまったこと。
- ・幹部面接で床に置いた鞆を忘れて退出しかけた。
- ・コンディションが悪すぎて他省庁の面接時間を直前に変更していただく羽目になりました。体調管理・準備は万全にしておくべきです。電車が遅れることも、道に迷うことだってあります。長丁場になるのに化粧道具を忘れたので、崩れ去ったありのままの姿で面接を受けることになりました。薄化粧で救われた…？

職員の方々の印象深い言葉

「役人としてではなく、国民の奉仕者かつ自然と人のプロフェッショナルコーディネーターとして働くべし」

「常に自然のプロとしての意識を持ち、学術的にも新しい知識を得続けようとする姿勢が大事」

「職員が動物愛護主義とか、環境保全主義になりすぎてはいけない」

「自然を守るだけではなく、活用して地域のために活かすことも仕事であり、レンジャーは保護と利用の両輪のもと仕事をする」

「たいがいうまくいかないのでめげないことが大事」

「環境省は「環境」じゃなくて「人」を売り込む。地域の方々に「あいつのためならやったる」と言ってもらえる職員になることが大事」

「もっと良い手法を採れば良いのだと思いますが、「ではどうするのか」ということを責任持って考えるのが行政の仕事です。有識者の方はどのような立場で発言／意見できるでしょうか」

「霞ヶ関には現場にはない霞ヶ関なりの面白さがある」

「限られた資源で長期的に続くくみを作らなければならない」

「何かしら環境を守ることに繋がっているんで、ここでやりがいのない仕事はない」

「面接はお見合いみたいなものだ」

「英語は勉強しておいた方が良い」

「君はレンジャーにピッタリな苗字をしてるねえ」

「(政策シミュレーションで)議論の際は絶対に否定から入らないでください」

「(外来種根絶は)無理やろ～」